



第79回国民スポーツ大会



ソフトテニス競技会



湖国の感動 未来へつなぐ

わたSHIGA 輝く国スポ

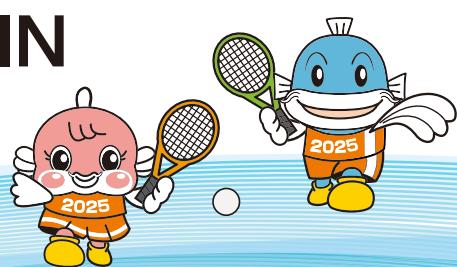
会期 令和7年10月3日(金)～10月6日(月)

会場 長浜城テニスガーデン
supported by HEISHIN

主催：公益財団法人日本スポーツ協会

文部科学省／滋賀県

公益財団法人日本ソフトテニス連盟／長浜市



国民スポーツ大会



国民スポーツ大会(国スポ)は、広く国民の間にスポーツを普及し国民の体力向上を図るとともに、地方スポーツの振興と地方文化の発展に寄与することを目的として、毎年開催される国内最大の総合スポーツ大会です。都道府県対抗で行われる正式競技・特別競技・公開競技のほか、年齢・性別・障害のあるなしを問わず、誰もが参加することができるデモンストレーションスポーツが実施されます。

第79回国民スポーツ大会

大会愛称

わたSHIGA輝く国スポ

選手、ボランティアをはじめ、滋賀県で開催するこの大会に関わるすべての人が、様々な場面で主役として光り輝き、夢や感動、連帯感を共有できる大会を目指します。

大会スローガン

湖国の感動 未来へつなぐ

「琵琶湖」を擁する湖国滋賀で生まれた感動が、この大会に関わるすべての人の心に刻まれ、明日への活力、未来への希望として将来にわたって引き継がれるようにとの願いが込められています。

大会マスコットキャラクター

琵琶湖に生息する固有種「ビワコオオナマズ」をモチーフにしたキャラクターです。



■ キヤツфиー

どんぐさいわりにチャレンジ精神が旺盛で何事にも一生懸命。子ども好きで人を楽しませることが大好きです。



■ チヤツфиー

「キヤツфиー」の幼なじみで、昔から仲の良い友達です。泳ぐことは得意ですが、陸のスポーツは少し苦手で「キヤツфиー」に教えてもらっています。

「キヤツфиー」と「チヤツфиー」を合わせて「キヤツチ」。人の心をキヤツチする、という意味が込められています。

目 次

あ い さ つ

大 会 会 長	遠 藤 利 明	1
文 部 科 学 大 臣	盛 山 正 仁	2
(公財)日本ソフトテニス連盟会長	安 道 光 二	3
歓迎のことば		
滋 賀 県 知 事	三 日 月 大 造	4
長 浜 市 長	浅 見 宣 義	5
滋賀県ソフトテニス連盟会長	宇 野 治	6
国民スポーツ大会天皇杯・皇后杯授与規程		
国民スポーツ大会会長トロフィー授与規程		
大 会 役 員		9
競 技 会 役 員		13
競 技 役 員		15
競 技 補 助 員、競 技 会 係 員、競 技 補 助 員(ボランティア)		18
総 則		19
ソ フ ト テ ニ ス 競 技 実 施 要 項		38
表 彰 式 次 第		42
競 技 日 程・会 議 日 程		43
ソ フ ト テ ニ ス 競 技 組 合 せ 表		44
競 技 進 行 表		48
競 技 の 見 方		50
都 道 府 県 別 参 加 人 員 一 覧 表		52
参 加 監 督・選 手 一 覧 表		53
総 合 成 績 决 定 方 法		63
男 女 総 合 成 績 (天 皇 杯 得 点)・女 子 総 合 成 績 (皇 后 杯 得 点) 一 覧 表		64
過 去 の 成 績 一 覧 表		65
会 場 案 内 図		72
競 技 会 場 ア ク セ ス マ ッ プ		73
大 会 関 係 機 関 連 絡 先		74



あいさつ

公益財団法人日本スポーツ協会

会長 遠藤 利明

約 400 万年の歴史を持つ日本最大で最古の湖である琵琶湖を中心に雄大な風景が広がり、古くから日本の文化や経済の先進地として栄えたここ滋賀県において、第 79 回国民スポーツ大会が開催されますことは、誠に喜ばしい限りです。

大会愛称である「わた SHIGA 輝く国スポ」のとおり、大会に関わる全ての方々が主役となり、光り輝くことができる大会となることを願っております。

スポーツは、目標に向かっての努力と達成感、そして観戦する人をワクワクさせ、楽しく、心を動かすものであるからこそ、人々を、社会を元気にする力を持ちます。

本年 6 月、14 年ぶりに改正されたスポーツ基本法では、スポーツを「する」「みる」「ささえる」に加え、「集まる」「つながる」として明示されています。

厳しい予選を勝ち抜き、郷土の代表として集まったアスリートの皆様には、フェアプレーを通じて友情を深め、つながり、スポーツが楽しいものであることを体現いただき、開催地の皆様とも交流を深め、全国にスポーツの力と滋賀県の魅力を発信する伝道者になっていただければ幸いです。

さて、昭和 21(1946)年にスタートした「国民体育大会」は、昨年から「国民スポーツ大会」へ名称を変えて新たなスタートを切るなど、大きな変革期にあります。

日本スポーツ協会では、本年 3 月、「今後の国民スポーツ大会の在り方を考える有識者会議」から示された「提言」に基づき、国民の皆様がこれまで以上にワクワクし持続可能な魅力ある大会となるよう、様々な改革に取組んでいくこととしています。

結びに、本大会の開催にあたり、長年諸準備にご尽力いただきました、地元滋賀県をはじめ関係の皆様方のご支援、ご協力に対し心から深く感謝申し上げます。



あ い さ つ

文 部 科 学 大 臣

あ べ 俊 子

天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、ここ滋賀県において第79回国民スポーツ大会「わた SHIGA 輝く国スポ」が盛大に開催されますことを、誠に喜ばしく存じます。

滋賀県は、日本最大の湖である「琵琶湖」、四季折々の表情を見せる「伊吹山」等、美しく彩りある豊かな自然の魅力にあふれ、世界文化遺産である「比叡山延暦寺」や国宝「彦根城」等、歴史と文化が息づく県です。

昭和56年のびわこ国体以来44年ぶりの滋賀県での開催となり、「湖国の感動 未来へつなぐ」をスローガンに、県全域を舞台に熱戦が繰り広げられます。

また、本大会は、様々な場面で環境に配慮した取組を行い、スポーツの力を活用し、持続可能な社会づくりに貢献していくすばらしい大会となっています。「わた SHIGA 輝く国スポ」が、国民に夢と感動、連帯感を共有できる大会、また、開催地である滋賀県の活性化に資する大会となりますことを心から願っております。

郷土の代表として参加される選手の皆さん、これまで積み重ねてこられた練習の成果を思う存分発揮され、我が国の国際競技力の向上が図られるとともに、この機会に全国の仲間や滋賀県民の皆さんとの交流の輪を広げられ、思い出に残る大会となりますことを期待しております。

昨年度は、パリオリンピック・パラリンピック競技大会が、今年度は東京2025世界陸上競技選手権大会、第25回夏季デフリンピック競技大会東京2025、ミラノ・コルティナ2026冬季オリンピック・パラリンピック競技大会が開催され、国民のスポーツへの関心はますます高まっているところです。

文部科学省としましても、アスリートや子供たちの活動の機会を確保し、スポーツの持つ力やすばらしさが社会の活力につながるよう関係の皆様と一丸となって取組を進めてまいります。

結びに、「わた SHIGA 輝く国スポ」の開催に当たり御尽力いただいた地元滋賀県、会場となる各市町をはじめとする関係の皆様の御支援、御協力に対し、心から敬意と感謝の意を表しまして、御挨拶といたします。

令和7年7月31日



ご あ い さ つ

公益財団法人 日本ソフトテニス連盟
会長 安道光二

第79回国民スポーツ大会ソフトテニス競技会が「湖国の感動 未来へつなぐ わた SHIGA 輝く 国スポ2025」のスローガンのもと、歴史と文化の薫る滋賀県長浜市「長浜城テニスガーデン」を舞台に、47都道府県を代表する精鋭の参加を得て開催できることは、このうえない喜びであります。

国民スポーツ大会ソフトテニス競技会は、我が国のトッププレイヤーが参加する都道府県対抗の団体戦であり、毎年ハイレベルな熱戦が繰り広げられることから、多くの皆様の深い関心を集めています。選手の皆さんには、郷土の代表であることに誇りを持ち、スポーツマンシップとフェアプレイの精神を大切に、これまでの努力の成果を遺憾なく発揮されることを期待いたします。

ここ長浜は、戦国武将・豊臣秀吉ゆかりの長浜城をはじめ、歴史的風土と琵琶湖を望む豊かな自然に恵まれた地であります。選手の皆さんには、そうした地域の魅力を感じながら競技に臨み、ソフトテニスを通じて交流と友情を深めて、ソフトテニスができる環境への感謝と対戦相手や大会を支えてくださる方々への敬意を忘れず、この大会に臨んでください。

最後になりましたが、本大会の開催にあたり長年にわたりご支援・ご協力を賜りました滋賀県、長浜市、滋賀県ソフトテニス連盟をはじめとする関係各位に深甚なる敬意と感謝を申し上げ、本大会の成功を祈念し、ごあいさつといたします。



歓迎のことば

わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ実行委員会会長

滋賀県知事 三日月 大造

天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、全国から選手・役員の皆様をはじめ多くの方々をお迎えし、ここ滋賀県において「わた SHIGA 輝く国スポ」を開催できることは、この上ない喜びであり、県民を代表して心から歓迎申し上げます。

また、本大会の開催にあたり多大な御支援と御協力を賜りました関係者の皆様に心から感謝を申し上げます。

本大会は、「湖国の感動 未来へつなぐ」をスローガンに掲げ、年齢、性別、障害のあるなしを問わず、すべての人が様々な場面で主役として光り輝くとともに、大会を通じて湖国滋賀で生まれた夢や感動、連帯感が、大会に関わるすべての人の心に刻まれ、明日への活力、未来への希望として将来にわたって引き継がれることを目指しています。

大会における共生社会の実現に向けた取組や環境配慮の実践、さらには心のこもったおもてなしなど、長年培ってきた滋賀ならではの視点により、みんなが輝く大会にしてまいりたいと考えております。

本県は、我が国最大の湖である琵琶湖をはじめとする豊かな自然環境や、古くから交通の要衝として栄えてきた歴史を有するとともに、先人が人と人、人と自然のつながりの中で育んできた文化が今も脈々と息づいています。是非、滋賀のリズムに触れていただき、心のリズムを整え、本県での滞在を楽しんでください。

選手の皆様方におかれましては、日頃の練習の成果を存分に発揮されますとともに、地域をこえた交流に触れ、本大会を思い出に残る素晴らしい大会にしていただきたいと存じます。

結びに、本大会に関わる皆様の御健勝と御多幸を心から祈念申し上げ、歓迎のことばといったします。

歓迎のことば



わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ

長浜市実行委員会会長

長浜市長 浅見 宣義

第 79 回国民スポーツ大会「わた SHIGA 輝く国スポ」ソフトテニス競技会が、全国各地から選手・監督をはじめ、多くの皆様をお迎えし、長浜市で盛大に開催できることは誠に光栄であり、市民を代表して心から歓迎いたします。

滋賀県での開催は、昭和 56 年の「びわこ国体」以来 44 年ぶり 2 度目の開催であり、長浜市では、ソフトテニス競技をはじめとする国スポ正式競技 5 競技、公開競技 1 競技、デモンストレーションスポーツ 1 競技、障スポ正式競技 1 競技を開催いたします。本大会の開催に際し、大会期間中、本市に訪れるすべての方々を心のこもったおもてなしでお迎えできますよう、市民一丸となって準備を進めてまいりました。

出場される選手の皆様におかれましては、郷土の代表として、日ごろの練習の成果を遺憾なく発揮され、すばらしい成績を収められるとともに、参加選手や地域の方々との交流、親睦の輪を広げていただき、本大会が皆様にとって思い出に残る大会となりますことをお祈り申し上げます。

さて、本市は豊臣秀吉公の出世の地として縁が深く、織田信長公のもとで戦った「姉川合戦場」や「小谷城跡」、初代城主となった「長浜城」、天下人を決定付けた「賤ヶ岳古戦場」などがあり、戦って日本一を決めるに相応しい歴史ある地域です。また、400 年以上続く伝統行事「長浜曳山祭」、雄大なびわ湖に浮かぶ神の島「竹生島」、現存する最古の駅舎「旧長浜駅舎」など、時代を超えて多くの文化遺産を持つ県内有数の観光都市でもあります。長浜駅直近の観光エリア「黒壁スクエア」は、城下町の面影があるレトロな街並み散策を楽しめる人気のスポットです。皆様には、時間の許す限り長浜市の魅力も存分に感じていただき、再び本市にお越しいただければ幸いです。

結びに、本大会の開催にご尽力を賜りました関係者の皆様に心から感謝を申しあげますとともに、本大会のご成功と選手の皆様のご健闘・ご活躍を祈念いたしまして、歓迎のことばといたします。



歓迎のことば

滋賀県ソフトテニス連盟

会長 宇野 治

「わたSHIGA輝く国スポ」のスローガンのもとに、新装になった「長浜城テニスガーデン supported by HEISHIN」において、全国各地の厳しいブロック予選を勝ち抜かれた選手の皆さん、ようこそ琵琶湖のほとり滋賀県長浜にお集まりいただき心より歓迎いたします。日本のほぼ中央に当たり戦国の歴史の地である近江の国長浜で、豊かな歴史と文化、そして湖国料理を存分に楽しんでください。

44年前の「びわこ国体」では、同じ長浜市民庭球場のクレーコートで、男女総合、女子総合ともに埼玉県が優勝されています。そのころとは道具もコートも違います。どうか日本のトップレベルの力と技を発揮された素晴らしいゲームを、応援の皆さんにも見せていただき、栄冠に向け頑張ってください。

今年は日本ソフト連盟が創立100周年を迎えた記念すべき年でもあります。この長い歴史の中でソフトテニス人口は減少傾向にありますが、多くの選手が各地で活躍されていることは大変嬉しいことです。世界選手権も開かれ海外での活躍も目覚ましいものがあります。来年は名古屋でアジア大会も開かれます。オリンピック正式種目も夢ではありません。さらに海外普及に力を入れ、子どもたちにオリンピックへの大きな夢を持たせてやってください。

終わりに、本大会の運営に当たり、日本ソフトテニス連盟はじめ、滋賀県、長浜市など国スポ関係者の皆さんに多大なるお力添えをいただき、心より感謝申し上げます。大会の成功と選手の皆様の健闘を祈念申し上げ、歓迎のことばといたします。



天皇杯

皇后杯

国民スポーツ大会天皇杯・皇后杯授与規程

- 第1条 国民スポーツ大会開催基準要項第11項に基づき、天皇杯は、男女総合成績第1位の都道府県、皇后杯は、女子総合成績第1位の都道府県に授与する。
- 2 第1位が2都道府県以上の場合、当該都道府県で共有する。
- 第2条 天皇杯及び皇后杯は、総合閉会式に授与し、次回の総合開会式において返還する。
- 第3条 天皇杯又は皇后杯を授与された都道府県は、次の各項の義務を有する。
- (1) 信託会社又は確実な金庫に保管する。
- (2) 破損、紛失等の場合は、当該都道府県の責任とする。
- (3) 公益財団法人日本スポーツ協会が優勝都道府県名刻印のため又はその他の必要により一時返還を求めた場合は、これに応じなければならない。
- 第4条 本規程の改廃は、国民スポーツ大会委員会の決議を経て行う。
- 附 則 本規程は、昭和41年4月1日制定
昭和45年1月22日一部改定
昭和48年7月10日一部改定
昭和54年5月9日一部改定
平成17年6月16日一部改定
平成22年3月17日一部改定
本規程は、公益財団法人日本体育協会の設立の登記の日（平成23年4月1日）から施行する。
平成30年4月1日一部改定
令和6年1月1日一部改定



大会会長トロフィー

国民スポーツ大会会長トロフィー授与規程

第1条 国民スポーツ大会開催基準要項第11項に基づき、国民スポーツ大会会長トロフィー(以下「大会会長トロフィー」という。)は、正式競技別男女総合成績第1位の都道府県に授与する。

2 第1位が2都道府県以上の場合は、当該都道府県で共有する。

第2条 大会会長トロフィーは、競技会表彰式に授与し、次回競技会において返還する。

第3条 大会会長トロフィーを授与された都道府県は、次の各項の義務を有する。

- (1) 責任をもって保管する。
- (2) 破損、紛失等の場合は当該都道府県の責任とする。
- (3) 優勝の刻印を次回大会までに行なうものとする。ただし、第1条第2項の場合は、当該都道府県で協議して決めるものとする。
- (4) 公益財団法人日本スポーツ協会が必要により一時返還を求めた場合は、これに応じなければならない。

第4条 本規程の改廃は、国民スポーツ大会委員会の決議を経て行う。

附 則 本規程は、昭和41年4月1日制定
昭和45年1月22日一部改定
昭和48年7月10日一部改定
昭和54年5月9日一部改定
平成17年6月16日一部改定

本規程は、公益財団法人日本体育協会の設立の登記の日(平成23年4月1日)から施行する。

平成30年4月1日一部改定
令和6年1月1日一部改定

大 会 役 員

2025年7月31日現在
(順不同・敬称略)

名譽会長	あべ 俊子	田中 不二夫	宮本 恵利子	森 岡 裕策	之 隆実
会長	あ遠 利直	田中 大造	宮本 英聖	西田 安勝	織 孝
副会長	益子 伏藤	三日月 喜均	本元川 桥坂	田井 植石	砂 美奈子
顧問	室伊 岡崎	森越村 広喜	岡保和	木久 洋	子生 直
	室伏 横井	松島 雅文	正成	金桐 木保	出日 澄
	室櫻 笠井	塚嶌 飯島	美子 保信	保子 丸川	國子 淳
	室木 幸平	嶋嶌 麻美	洋子 之久	藤谷 長谷	司津 淳
	旗生 康平	飯嶋 中池	登志 有恒	藤永 安佐	洋衛 弘
	藤貝 裕生	藤嶋 池藤	紀子 美絵	野崎 大山	寿 勝利
	瀬多 康定	森嶋 原藤	子雄	崎田 中村	子ゆり
	吉氣 幸裕	井嶋 滉森	美文	宮中 博美	壽明
	吉上 長智	齋嶋 幸井	文章	大山村 博美	洋俊
	馬治 太洋	湧嶋 尚仁	実周	中岡 伸和	哲幸
	千加 浅美	山口 寛仁	博成	岡田 弘和	節祐
	加浅 建良	里中 仁也	夫之	時木 晃弘	一彰
	加齋 啟良	田市 正彦	央子	木丸 晃陽	行人
	今古 城城	谷近 仁彦	信之	池岡 昌雅	彥雄
	田城 門門	小知 文彦	雄昌	園出 上大奥	一彰
	茂野 谷野	前生 徹文	高智	大田 奥田	仁博
	熊藤 岩田	千久 一久	繁	松田 高智	次
	藤山 今南	北塩 一巳	誠	高山 仁	幸
	増 増田	中福 伯和	喜健	松田 平樹	恭
		福猪 敏和	喜健	本村 之	幸
		飼秀 伯和	喜健	本松 高山	喜

太郎 三敏 藏樹 隆美 厚彦 郎 雄宏 清子 二一 弘也 ん人 弘英 也 彦人 朗 一恭 也 昌實 吾一 俊人
慎浩 英康 正久 和賢 裕和 正明 祐俊 益正か雅 善光 拓和 俊八 守歳 誠孝 賢康 國文
西邊 戸成 原良 林中 野野 寺本 棱浜 澤合 場田 島田 川城 増川 谷田 部藤 田宗 田石 田村 河
小渡 城宮 藤奈 小野 矢上 小宮 小永 深川 馬河 牧土 笹岩 達大 熊新 阿伊 池越 槙大 塩有 小
治一 泰子 治子 一新 宏子 子英 英人 靖也 明二 一威 成樹 也士 裕世 剛章 彦也 純義 郎彦 也
英祐 章秀 朝廣 幸治 裕展 嘉和 恒達 英光 真弘 秀知 清元 英秀 元達 正祥 俊康 和
尾村 木木 良藤 部子 村野 村浦 本間 山道 村砂 耕羽 谷村 野角 野村 藤山 口隈 井崎
横河 青辛 平佐 菊武 增有 北武 北杉 宮仲 富安 中真 世丹 小北大 花高 大齋 丸後 山日 赤岩
尾村 木木 良藤 部子 村野 村浦 本間 山道 村砂 耕羽 谷村 野角 野村 藤山 口隈 井崎
横河 青辛 平佐 菊武 增有 北武 北杉 宮仲 富安 中真 世丹 小北大 花高 大齋 丸後 山日 赤岩
晃美 希彦 成弘 子子 健行 敦由 紀クス 彦地 地泰 子文室 郎次 子生子 司浩 治二 史男政 直
ひ祐 勝幸 隆妙 純敦 由アレックス 泰聖 大和裕 恭玄 喜正 素裕 美祐 伸達 多知 昭嗣 誠太郎 直
田本 越柳 元上 木口 松野 田赤 浅嘉 斎藤 アレックス 泰聖 大和裕 恭玄 喜正 素裕 美祐 伸達
奥堂 馬小 岩川 宇津 木山 口松 野田 赤浅 嘉斎 藤アレックス 泰聖 大和裕 恭玄 喜正 素裕
田本 越柳 元上 木口 松野 田赤 浅嘉 斎藤 アレックス 泰聖 大和裕 恭玄 喜正 素裕 美祐 伸達
彦幸 稔武 格朗 司孝 邦毅 孝史 悟勉 子一 志治 男満 男郎 銚司 一博 浩隆 俊泉 英男 博
一一 一一 嘉正 泰敏 隆信 定裕 東直 良章 幸幸 有富 義隆 知岩 隆斐 男博 デニ
田藤 中本 本原 菅澤 城里 岡り 片藤 森田 田岡 田井 田匠 田本 口脇 崎田 知岩 隆斐 男博
船近 田藤 藤大 河小 寺金 茂大 こやり 目伊 有坂 藤砂 豊村 町番 寶鶴 福山 馳田 西宮 莢大 甲玉 粉井
田藤 中本 本原 菅澤 城里 岡り 片藤 森田 田岡 田井 田匠 田本 口脇 崎田 知岩 隆斐 男博
田藤 中本 本原 菅澤 城里 岡り 片藤 森田 田岡 田井 田匠 田本 口脇 崎田 知岩 隆斐 男博

委員長	國一武次之
副委員長	光礼栄博
総務委員	藤田野下野
	加三宇山佐
	藤田本西畠川田
誠真佳鉄利成啓秀	早千忠信純裕航純清昌英
藤田口水沼	村田田吹田川西永田本
加桐佐清菅谷中本東野松山伊保北小岩角寺堤野武山上田市太	村田本西畠川田
和史代行二郎史代則子惠也恵義一義健啓知寿寛昭文司幸治哉	東村井田防中川木重田田木見村城村津堂澤田戸木野山
英浩千清清松雅三重知三達佳隆陽宣克国和智博貴良恒智美智子	海河駒柴周田中節森窪園中中正原浅竹今有甲藤岸金山川三佐崎
正二仁一則誠明宏人一之守人子晃成史子治久夫努伸祥太子宣雄	村島野田井中波田沢井村田原内島中浦田田井村林井野長西
芳隆榮幸義武成真和曉久久一高加秀善良義幸と弘孝	奥川桑柴白田富野木土森中岡藤池田森松西藤市涌寺竹石草富大
泰昭ひと英典和元織晃寛光雅健直和久祥正博真泰健太郎志一也成郎代和浩	江成学剛み樹隆行庸江弘彦一稔史司渉樹博良郎志一也成郎代和浩
小河九重清田谷中村岸塚東奥白小佐橋櫻堀久高熊山杉一高上赤山岩松菅山谷熊江橋木青	川井里田水中口山上本本郷山井林藤川本江保橋倉本原圓橋村井本田永原澤谷橋木克安

委員
等史勉修輔茂男輔史司三也紀潤輝紀輔紀香伸也博史朗宏人晃和巳光良斗敬博浩雅佑雅
月野野野川泉原藤中前口澤口藤波田貫谷玉葉原田口田本城間内田若細濱高宮岡西衛山越川富田近沼見大深児稻木前河前濱宮菅竹武田部刈黑
政奥信憲剛哲信二真理恵百章弘和尚直由剛純新英度尚雅宏守直公
村原田喜藤田川南木山野治原高江井谷埜田我嶋口岡山元葉澤井田岡江
吉栗品舟加和岸長鈴中東品小宇横高瀬岩戒林曾中田辻松山千柄碓沼吉平
一洋司男美巖治昇壽子二里花大子子敦規暢行司浩子行成和哉司洋彦守治也
聖幸裕重正宏千明好友百遙佳直正克隆宗綾孝一美信真雅元健吉
橋士間川藤口井橋井根本口中本水木野保澤田村本田鷺山藤田井後井木部
高福佐黒安川平高三関杉野坊田池清鈴高新井藤吉松高尾横遠角酒今松荒綾
了夫太郎淳則広祐幸雄亘由美子裕大介広樹美人也紀二正成行郎洋司人哲勝巳之
野本邊澤梶木口原辺本田子岡垣野藤田田松浦橋本米井野野藤瀨上内崎渡嘉敷
平松渡寺中鈴田菅渡井吉金政寺南門加太金村杉高松久次笠吉高須東井竹寺
等史勉修輔茂男輔史司三也紀潤輝紀輔紀香伸也博史朗宏人晃和巳光良斗敬博浩雅佑雅
月野野野川泉原藤中前口澤口藤波田貫谷玉葉原田口田本城間内田若細濱高宮岡西衛山越川富田近沼見大深児稻木前河前濱宮菅竹武田部刈黑
政奥信憲剛哲信二真理恵百章弘和尚直由剛純新英度尚雅宏守直公
村原田喜藤田川南木山野治原高江井谷埜田我嶋口岡山元葉澤井田岡江
吉栗品舟加和岸長鈴中東品小宇横高瀬岩戒林曾中田辻松山千柄碓沼吉平
一洋司男美巖治昇壽子二里花大子子敦規暢行司浩子行成和哉司洋彦守治也
聖幸裕重正宏千明好友百遙佳直正克隆宗綾孝一美信真雅元健吉
橋士間川藤口井橋井根本口中本水木野保澤田村本田鷺山藤田井後井木部
高福佐黒安川平高三関杉野坊田池清鈴高新井藤吉松高尾横遠角酒今松荒綾
了夫太郎淳則広祐幸雄亘由美子裕大介広樹美人也紀二正成行郎洋司人哲勝巳之
野本邊澤梶木口原辺本田子岡垣野藤田田松浦橋本米井野野藤瀨上内崎渡嘉敷

競技会役員

(順不同・敬称略)

名会副顧	一 寛博淳之司 淳雅児斎信廣利順 誠信 恭善健 宗健 勝光勝園	一子彥保 二子子大平勇士郎子
長問	藤 西 星 織 高 鮎 向 道 喜 川 加 多 松 寺	修 恭 晴 隆 成 洋 信 陽 修 紀 敬 和
長	田 村 野 田 橋 田 山 上 田 西 藤 田 尾 園	山 下 原 邊 島 藤 田 川 川 賀 川 山 塚 井
長	野 原 上 藤 沼 妻 川 浦 內 地 吉 脇 地 川	米 宮 木 篠 川 伊 赤 岩 北 多 中 錐 大 平
會	宇 小 井 伊 新 下 石 山 竹 芝 三 岩 加 外	人 明 章 美 郎 稔 晴 介 之 浩 登 男 二
會	水 村 田 崎 内 島 川 野 合 尾 中 枝 江 田 間 岡 崎 本 藤 井 地 井 番 谷 本 本 山 西	野 田 際 藤 野 田 木 田 納 田 中 井 守 谷
會	清 北 津 神 小 川 吉 倉 落 谷 田 秋 橫 吉 外 松 丹 山 斉 藤 福 永 江 押 杉 竹 橋 村 小	水 西 野 安 上 坂 栲 荻 加 千 田 藤 矢 長
會	義 二 子 夫 雄 一 彦 一 好 人 茂 也 朗 則 一 敬 城 衛 仁 久 二 海 子 一 豊 行 男 亨 ウ 治 助 彦	太 父 孝 健 元 勇 富 仁 正 英 直 典 さ 善
宣	宣 光 洋 達 茂 正 直 敏 哲 幹 信 節 誠 信 昌	諭 久 誠 宏 悟 登 一 人 男 男 雄 文 志 紀 勉 一 毅 三 治 茂 子 資 春 一 隆 子 お り 生
見	見 道 島 井 田 田 山 田 田 番 川 谷 井 坂 田 番 田 淵 下 水 下 本 口 井 橋 頭 山 川 本 谷 川	和 公 洋 立 敏 敏 一 正 忠 博 孝 健 元 勇 富 仁 正 英 直 典 さ 善
浅	浅 安 大 笠 本 萬 原 奥 森 廣 川 小 田 今 田 吉 川 重 田 柳 白 山 山 樋 金 大 鬼 高 中 松 押 前	和 公 洋 立 敏 敏 一 正 忠 博 孝 健 元 勇 富 仁 正 英 直 典 さ 善

参

与

樹人貴一行美克彦崇幸統生
秀路美博裕由信靖利英秀
前間岡木田木水塚島立頭田
大菊谷増内鈴清中川足兵前
子子二浩史豊雄子文也紀夫
香圭健康和正博敏美國
田添野越村塚山口口川瀬宿
蛭川高堀久中若野木黒長今
孝広根保美南彦誠郎史士也彥子
清育石志増雅賢命裕克道桂
矢藤藤井口田田崎岡村居須本谷
二加加高原横寺島守澤藤那山打
健賢琢亞希妃雄子江典真範り介
司二諭希富悅初克和正み祐昭一郎
佐森運笠鈴額山高川藤西太山郷
藤田上原木賀本森嶋居堀田口間
木

競技役員

(順不同・敬称略)

総務委員長	二矢 清孝	當瀬 純一	高森 初江
総務副委員長	森田 賢二	那須 克也	高兵頭 統代
総務委員	永井 富美子	河由美子	長瀬 美紀
	久保田 真弓	明安	清望
競技委員長	堀越 浩		
競技副委員長	大津 龍二	寺田 雅彦	
競技委員	川嶋 克典	西堀 正範	
進行委員長	西河 豊人		
進行副委員長	野崎 勝也		
進行委員	中出 明知	井上 稔紀	三和 真奈子
オーダー受付委員長	郷間 昭一郎		
オーダー受付副委員長	山本 道彦		
オーダー受付委員	倉田 直弥	高岡 康良	北村 雅文
	三谷 雅人		岡崎 隆祥
招集委員長	清水 信克		
招集副委員長	高岡 滋夫		
招集委員	横山 敏幸	馬場 昌則	山本 千加子
	中村 雅幸		杉田 貢一
記録委員長	岩崎 俊裕		
記録副委員長	小梶 淳二		
記録委員	徳永 真理	甲木 祐輔	荻野 泰成
総合成績計算委員長	加藤 育広		中川 寿香
総合成績計算副委員長	青井 清昭		
総合成績計算委員	横江川 貢		
広報報道委員長	蛭田 香名子		
広報報道副委員長	守岡 賢一郎		
広報報道委員	斉木 達也	岸本 直美	曾根 環
式典委員長	鈴木 由美		
式典副委員長	若山 和雄		
式典委員	小堀 春恵	大植 なつの	
庶務委員長	野口 正子		
庶務副委員長	藤原 美智代		
庶務委員	赤田 洋子	林佳子	古川 千津子
	辻克子	松浦みどり	藤橋由紀
放送委員長	前田 秀生		
放送副委員長	桂本 佳代子		
放送委員	若山 真梨		

太翔錦和昭司吾紀尋樹河貴輝子史明美涼
涼友英健美千龍大大将亞隆裕倫力エラ
本山内田北上上井川岡原内野澤藤田藤畑
谷青池久河井田藤横江松萩竹星寺後小佐簾
大司宏矢紀大淳剛治輝文智成奈い翔連咲臣
将貴俊修稔貴 賢亮崇 大大陽あ彩花美一
野井下上崎本江迫 根藤原田本村倉田部
奥藤南山井尾岡杉白東坂首萩麻山中羽松阿
二朗登宏良之郎輔弘仁耀大祐典樹亮朱佳和
悠拓海貴康貴太大康智太暖良佑乃幸千陽
井村中田岡條西井之村原田名野重葉村島田
奥野田澤高中大永上植北澤浜矢盛稻奥久留上
昭聖史彬弥壯輝介美彦郎基希誠美一輝来奈
年俊直佳利祐直忠昊彩達凌希恭優唯百
瀬竹川部田藤財口詰家村上村本田井木田永
廣大中渡倉後小山村富下村中丸前岩柏松富

競 技 補 助 員

滋賀県立	長 浜 北	高等学校ソフトテニス部員	38名
滋賀県立	長浜北星	高等学校ソフトテニス部員	10名
滋賀県立	虎 姫	高等学校ソフトテニス部員	35名
滋賀県立	伊 香	高等学校ソフトテニス部員	20名
滋賀県立	彦 根 東	高等学校ソフトテニス部員	20名
滋賀県立	彦根翔西館	高等学校ソフトテニス部員	15名
滋賀県立	八幡工業	高等学校ソフトテニス部員	32名
長浜市立	東	中学校ソフトテニス部員	8名
長浜市立	西	中学校ソフトテニス部員	18名
長浜市立	南	中学校ソフトテニス部員	6名
長浜市立	北	中学校ソフトテニス部員	21名
長浜市立	浅 井	中学校ソフトテニス部員	8名
長浜市立	び わ	中学校ソフトテニス部員	8名
長浜市立	湖 北	中学校ソフトテニス部員	6名
長浜市立	高 月	中学校ソフトテニス部員	8名
長浜市立	木 之 本	中学校ソフトテニス部員	6名
長浜市立	西 浅 井	中学校ソフトテニス部員	2名
長浜市立	虎 姫 学 園	ソフトテニス部員	2名
長浜市立	余 吳 小中学校	ソフトテニス部員	2名

競 技 会 係 員

「長浜市実施本部職員一同」

競 技 会 補 助 員

「長浜市ボランティア一同」

大会実施要項

総則

開催の趣旨

国民スポーツ大会は、広く国民の間にスポーツを普及し、スポーツ精神を高揚して国民の健康増進と体力の向上を図り、併せて地方スポーツの推進と地方文化の発展に寄与するとともに、国民生活を明るく豊かにしようとする国内最大のスポーツの祭典である。

滋賀県で開催する第79回国民スポーツ大会「わた SHIGA 輝く国スポ」は「湖国の感動 未来へつなぐ」をスローガンに掲げ、年齢、性別、障害のあるなしを問わず、すべての人が様々な場面で主役として光り輝くとともに、大会を通じて湖国滋賀で生まれた夢や感動、連帯感が、大会に関わるすべての人の心に刻まれ、明日への活力、未来への希望として将来にわたって引き継がれる大会を目指して開催する。

実施方針

1 実施競技

(1) 正式競技 (37 競技)

陸上競技、水泳、サッカー、テニス、ローイング、ホッケー、ボクシング、バレーボール、体操、バスケットボール、レスリング、セーリング、ウエイトリフティング、ハンドボール、自転車、ソフトテニス、卓球、軟式野球、相撲、馬術、フェンシング、柔道、ソフトボール、バドミントン、弓道、ライフル射撃、剣道、ラグビーフットボール、スポーツクライミング、カヌー、アーチェリー、空手道、銃剣道、なぎなた、ボウリング、ゴルフ、トライアスロン

(2) 公開競技 (7 競技)

縄引、ゲートボール、武術太極拳、パワーリフティング、グラウンド・ゴルフ、バウンドテニス、エアロビック

(3) デモンストレーションスポーツ (26 競技)

インディアカ、ウォーキング、ウォーキングフットボール、小倉百人一首競技かるた、カローリング、還暦軟式野球、キンボールスポーツ・レクリエーション、里湖で地域を結ぶウォーキング、スポーツウェルネス吹矢、スポーツ鬼ごっこ、スポーツ拳法、スポーツチャンバラ、スリースマイルゴルフ、スローイングビンゴ、ソフトバレーボール、ネットでポンポイ、ノルディック・ウォーク、ひこねスーパーカロム、ビリヤード、フットサル、マリンスポーツフェスティバル、ミックスバレー ボール、モルック、ユニカール、ユニホック、ラジオ体操第3（初代・二代目）

(4) 特別競技 (1 競技)

高等学校野球

2 会期および会場地

(1) 正式競技・特別競技 (15市、4町：計19市町)

会期	会場地
2025年9月28日（日） ～10月8日（水） 〔11日間〕	大津市、彦根市、長浜市、近江八幡市、草津市、守山市、栗東市、甲賀市、野洲市、湖南市、高島市、東近江市、米原市、日野町、竜王町、愛荘町、大阪府豊能郡能勢町、兵庫県三木市
2025年9月6日（土） ～9月15日（月） 〔10日間〕	大津市、長浜市、草津市 ※ 水泳、体操、バレーボール（ビーチバレーボール）競技会は上記会場地で実施
2025年9月21日（日） ～9月25日（木） 〔5日間〕	東近江市、京都府向日市 ※ 自転車（トラック・レース、ロード・レース）競技会は上記会場地で実施

(2) 公開競技 (7市：計7市町)

会期	会場地
2025年8月23日（土） ～9月21日（日）	長浜市、近江八幡市、草津市、守山市、栗東市、甲賀市、野洲市

(3) デモンストレーションスポーツ (13市、1町：計14市町)

会期	会場地
2025年4月12日（土） ～9月14日（日）	大津市、彦根市、長浜市、近江八幡市、草津市、守山市、栗東市、甲賀市、野洲市、湖南市、高島市、東近江市、米原市、多賀町

(4) 文化プログラム

文化プログラムの実施については、「文化プログラム実施基準」に基づき、2025年1月1日から2025年12月31日までの期間で、原則として、県内市町で開催する。

3 競技方法

各競技別実施要項に示す方法とし、正式競技は都道府県対抗で実施する。

4 ドーピング検査の実施

大会におけるアンチ・ドーピング活動（ドーピング検査およびアンチ・ドーピング教育活動）は、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構が定める「日本アンチ・ドーピング規程」および別に定める「国民スポーツ大会アンチ・ドーピング活動に関するガイドライン」に基づき実施する。

なお、治療の目的で禁止物質・禁止方法を用いる必要がある場合は、事前に「治療使用特例」(TUE) の手続きを行うこと。

各都道府県の代表選手は、大会期間中は常に「国民スポーツ大会ドーピング検査同意書」を所持しなければならない。選手が18歳未満の場合、本人の署名および親権者の署名がある同意書を所持すること。

5 参加資格、所属都道府県および選手の年齢基準

選手および監督の参加資格、所属都道府県および選手の年齢基準は、次のとおりとする。

なお、参加資格については、「第 79 回国民スポーツ大会参加資格、所属都道府県および年齢基準等の解釈・説明」を併せて確認すること。

【 公益財団法人日本スポーツ協会ホームページ <http://www.japan-sports.or.jp/> 】

(1) 参加資格

ア 日本国籍を有する者であることとするが、選手および監督のうち、次の者については、日本国籍を有しない者であっても、大会に参加することができる。

(ア) 「出入国管理および難民認定法」に定める在留資格のうち「永住者」（「日本国との平和条約に基づき日本の国籍を離脱した者等の出入国管理に関する特例法」に定める「特別永住者」を含む。）

(イ) 少年種別年齢域に該当し、次の要件をいずれも満たす者

a 「学校教育法」第 1 条に規定する学校に在籍する学生または生徒で、「8 参加申込方法」で定めた参加申込締切時に 1 年以上在籍していること。

b 「出入国管理および難民認定法」に定める在留資格のうち、「留学」、「家族滞在」または「定住者」に該当していること。

(ウ) 成年種別年齢域に該当し、次の要件をいずれも満たす者

a 少年種別年齢域にあった時点において前号(イ)に該当していた者であること。

b 「出入国管理および難民認定法」に定める在留資格のうち、大会参加時から終了時まで「留学」に該当しないこと。

[注] 上記(ウ)b について、大学および専修学校等に在籍する成年種別の年齢域に該当する者は、「出入国管理および難民認定法」に定める「留学」以外の在留資格を有する場合も「留学」と同等に扱う。

イ 選手および監督は、所属都道府県の当該競技団体会長（代表者）とスポーツ協会会長（代表者）が代表として認め、選抜した者であること。

ウ 2023 年開催の特別大会または第 78 回大会（都道府県大会およびブロック大会を含む）において選手または監督として参加した者は、次の場合を除き、2023 年開催の特別大会または第 78 回大会と異なる都道府県から参加することはできない。

(ア) 成年種別

a 「学校教育法」第 1 条に規定する学校を卒業した者

b 結婚または離婚に係る者

[注] a および b は当該要件発生後、初めて参加するものに限る。

c ふるさと選手制度を活用する者（別記 1 「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」による。）

[注] 別記 3 「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」の適用を受け、ふるさと選手として参加する者を含む。

d 東日本大震災に係る参加資格特例措置を活用する者（別記 5 「東日本大震災に係る選手および監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」による。）

e 能登半島地震に係る参加資格特別措置を活用する者（別記 6 「能登半島地震に係る選手および監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」による。）

(イ) 少年種別

- a 「学校教育法」第1条に規定する学校を卒業した者
- b 結婚または離婚に係る者
- c 一家転住に係る者（別記2「『一家転住等』に伴う特例措置」による。）

[注] aからcは当該要件発生後、初めて参加するものに限る。

- d JOCエリートアカデミーに在籍する者（別記3「JOCエリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」による。）

- e 東日本大震災に係る参加資格特例措置を活用する者（別記5「東日本大震災に係る選手および監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」による。）

- f 能登半島地震に係る参加資格特別措置を活用する者（別記6「能登半島地震に係る選手および監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」による。）

エ 選手と監督の兼任は、同一種別内に限る。

オ 選手および監督は、回数を同じくする大会において、冬季大会および本大会にそれぞれ1競技に限り参加できる。

カ 選手および監督は、回数を同じくする大会において、異なる都道府県から参加することはできない。

キ 選手、監督ならびに本部役員帶同のスポーツドクターおよびアスレティックトレーナーは、大会参加前の1年以内に公益財団法人日本スポーツ協会（以下「日本スポーツ協会」という。）が指定するアンチ・ドーピング教育を受講し、「国スポ本戦出場前のアンチ・ドーピング教育履歴」に記載した者であること。

ク 上記のほか、選手については次のとおりとする。

(ア) 都道府県大会およびブロック大会に参加し、これを通過した者であること。

(イ) 健康診断を受け、競技会への参加に支障がない者であること。

(ウ) ドーピング検査対象に選定された場合は、検査を受けなければならない。

ケ 上記のほか、監督については日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度に基づく競技別指導者資格を有する者とし、監督が不在の場合選手は参加することができない。各競技における対象資格については当該競技実施要項によるものとする。

(2) 所属都道府県

所属都道府県は、当該競技団体が限定する場合を除き、次のいずれかが属する都道府県から選択することができる。

ア 成年種別

(ア) 居住地を示す現住所

(イ) 勤務地

(ウ) ふるさと（別記1「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」による。）

[注] 別記3「JOCエリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」の適用を受け、ふるさと選手として参加する者を含む。

イ 少年種別

(ア) 居住地を示す現住所

(イ) 「学校教育法」第1条に規定する学校の所在地（以下「学校所在地」という。）

(ウ) 勤務地

(エ) 別記3「JOCエリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」に定める小学校

の所在地

※ 「居住地を示す現住所」、「勤務地」、「学校所在地」のいずれかから参加する場合は、2025年4月30日以前から本大会終了時（2025年10月8日）まで、引き続き当該地に、それぞれ居住、勤務、または通学していかなければならない。ただし、次の者はこの限りではない。

[成年種別]

- a 別記4「トップアスリートの国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者
- b 別記5「東日本大震災に係る選手および監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者
- c 別記6「能登半島地震に係る選手および監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者

[少年種別]

- a 別記2「『一家転住等』に伴う特例措置」の適用を受ける者
- b 別記4「トップアスリートの国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者
- c 別記5「東日本大震災に係る選手および監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者
- d 別記6「能登半島地震に係る選手および監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者

(3) 選手の年齢基準

ア 選手の年齢基準については、下記を原則とする。

- (ア) 成年種別に参加する者は、2007年4月1日以前に生まれた者とする。
- (イ) 少年種別に参加する者は、2007年4月2日から2010年4月1日までに生まれた者とする。
- (ウ) 年齢を区分している種別へ参加する者の年齢計算は、2025年4月1日を基準とする。
- イ 日本スポーツ協会が特に認める場合は、上記アにかかわらず、競技ごとに年齢区分を設定することができる。ただし、年齢の下限は中学3年生（2010年4月2日から2011年4月1日までに生まれた者）とする。

(4) 前記の各事項に疑義のあるときは、日本スポーツ協会および当該競技団体が調査・審議のうえ、日本スポーツ協会がその可否を決定する

6 各正式競技の総合成績決定方法

各正式競技の総合成績決定方法は次のとおりとする。

(1) 次のア、イの得点を合計したものを男女総合成績（天皇杯得点）および女子総合成績（皇后杯得点）とする。

ア 競技得点

競技得点は、各種別、種目などの第1位から第8位までの都道府県に与え、次のとおりとする。ただし、同順位の場合は、次の順位のものを加え、当該都道府県で等分し、割り切れない場合は、小数第3位以下を切り捨てる。

		1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
種別	4人以下	24点	21点	18点	15点	12点	9点	6点	3点
	5人以上7人以下	40点	35点	30点	25点	20点	15点	10点	5点
	8人以上	64点	56点	48点	40点	32点	24点	16点	8点
種目	—	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点

[注] 「種別」：種別などに与える競技得点 「種目」：種目などに与える競技得点

イ 参加得点

参加得点は10点とし、大会（ブロック大会を含む。）に参加した都道府県に与える。

ただし、ブロック大会で本大会の出場権を獲得しながら、本大会に参加しなかった場合は与えない。

- (2) 各競技の総合成績は、当該競技団体が決定する。

ただし、天候その他の事情により一部競技が中止になった場合は、当該競技団体と大会総務委員会が協議する。

- (3) 参加資格違反等に関わる得点等の取り扱いについては、「国民スポーツ大会における違反に対する処分に関する規程」によるものとする。

7 表彰

- (1) 冬季大会および本大会で実施した全正式競技の男女総合成績第1位の都道府県に天皇杯を、同じく女子総合成績第1位の都道府県に皇后杯をそれぞれ授与する。
- (2) 冬季大会および本大会で実施した全正式競技の男女総合成績および女子総合成績の第1位から第8位までの都道府県に、それぞれ表彰状を授与する。
- (3) 各正式競技の男女総合成績第1位の都道府県に、国民スポーツ大会会長トロフィーを授与する。
- (4) 各正式競技の男女総合成績および女子総合成績の第1位から第8位までの都道府県に、それぞれ表彰状を授与する。
- (5) 各競技の各種別および各種目などの第1位から第8位までに賞状を授与する。団体競技の場合は、その都道府県名とチーム全員（監督を含む）の氏名を記載したものを都道府県用に1枚、さらにその都道府県名と個人名を記載したもの、または都道府県名とチーム全員（監督を含む）の氏名を記載したものをチーム全員に授与する。

8 参加申込方法

- (1) 参加申込

都道府県スポーツ協会会長（代表者）および競技団体会長（代表者）は、連署の上、都道府県大会またはブロック大会において選抜された者および公益財団法人日本高等学校野球連盟が選出したチームを、大会会長宛に申込むものとする。

- (2) 参加申込締切

参加申込は、定められた締切日までに国民スポーツ大会参加申込システムにより行う。なお各競技別実施要項の「参加申込方法」を併せて確認すること。

- (3) 参加申込締切日

締切日	競技
2025年 8月20日(水) 【12競技】	水泳、ローイング、バレーボール（ビーチバレーボール）、体操、レスリング、セーリング、自転車、相撲、カヌー、ボウリング、ゴルフ、トライアスロン
2025年 9月4日(木) 【27競技】	陸上競技、サッカー、テニス、ホッケー、ボクシング、バレーボール（6人制）、バスケットボール、ウェイトリフティング、ハンドボール、ソフトテニス、卓球、軟式野球、馬術、フェンシング、柔道、ソフトボール、バドミントン、弓道、ライフル射撃、剣道、ラグビーフットボール、スポーツクライミング、アーチェリー、空手道、銃剣道、なぎなた、高等学校野球

(4) 参加申込様式

参加申込様式は、日本スポーツ協会が実施競技団体と協議の上、作成する。

(5) 公開競技の参加申込

公開競技については、別途当該中央競技団体が定める所定の手続きにより行う。

(6) 選手の交代

参加申込締切後の選手の交代は、特別な事情がない限り認めない。特別な事情で選手を交代する場合は、所定の様式、方法により次のア～ウ宛に届け出なければならない。

ア 全国を統轄する各中央競技団体事務局

イ わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ実行委員会事務局

ウ わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ各競技会場地市町実行委員会事務局

なお、日本スポーツ協会に対しては、大会終了後、所定の手続きにより参加申込情報を修正すること。

9 棄権手続

参加申込締切後から競技初戦までの間において、特別な事情で選手が競技会を棄権する場合には、所定の棄権手続きをとらなければならない。

なお、棄権手続きに係る届出については選手交代届と同じ様式を用いること。

10 大会参加負担金

(1) 大会に参加選手団（視察員を除く）を派遣する都道府県スポーツ協会は、大会参加負担金を納入する。一人当たりの大会参加負担金の額は下記のとおりとする。

区分	負担金
少年の種別に参加する選手	3,000円
上記以外の者（本部役員、監督、成年の種別に参加する選手等）	6,000円

[注] 地震、風水害、感染症およびその他主催者の責によらない事由により大会を中止した場合、大会参加負担金の返金は行わない。

(2) 大会参加負担金は、都道府県スポーツ協会で取りまとめ、次のとおり納入する。

ア 納入期限 2025年9月5日(金)

イ 納入先 みずほ銀行 渋谷支店 普通預金口座 513729
公益財団法人日本スポーツ協会

11 宿泊申込

大会参加者は、わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ実行委員会が指定した所定の様式により、定められた締切日までに申込む。

12 都道府県選手団本部役員編成

- (1) 都道府県選手団本部役員は、次のとおりとする。
 - ア 参加選手 500 名以上 の場合は、団長、総監督および総務ほか、計 20 名以内とする。
 - イ 参加選手 300 名以上 500 名未満 の場合は、団長、総監督および総務ほか、計 15 名以内とする。
 - ウ 参加選手 300 名未満 の場合は、団長、総監督および総務ほか、計 10 名以内とする。
- (2) 上記役員のほか、5名以内の顧問を設けることができる。
- (3) 上記(1)および(2)による本部役員総数の範囲内で、スポーツドクターを帯同するものとする。
なお、帯同するスポーツドクターは日本スポーツ協会公認スポーツドクター資格を有する者とする。
- (4) 上記(1)および(2)による本部役員総数の範囲内で、原則としてアスレティックトレーナーを帯同するものとする。
なお、帯同するアスレティックトレーナーは日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格を有する者とする。
- (5) 都道府県選手団本部役員の1日あたりの編成人数については、上記(1)および(2)による人数を上限とする。
- (6) 都道府県選手団本部役員の参加申込は、2025年9月4日（木）までに国民スポーツ大会参加申込システムにより行う。

13 観察員

- (1) 観察員は、1都道府県3名以内とする。ただし、2026年以降の国民スポーツ大会の開催が決定または内定している県については、青森県100名以内、宮崎県および長野県60名以内、群馬県および島根県40名以内とする。
- (2) 都道府県の観察員の参加申込は、2025年9月4日（木）までに国民スポーツ大会参加申込システムにより行う。

14 AD カードの交付

都道府県選手団、公開競技に参加する選手・監督および役員、大会役員・競技会役員および競技団体が指定した競技役員、大会主催者および競技会主催者が認めた者には AD カード (Accreditation Card) を交付する。

15 参加上の注意

- (1) 大会期間中は、交付されたADカードを携帯しなければならない。
- (2) 各都道府県の代表選手は、競技に際し、「国民スポーツ大会ユニフォーム規程」に基づき、ユニフォームを着用しなければならない。

16 個人情報および肖像権に関する取り扱い

日本スポーツ協会、わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ実行委員会、わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ各競技会場地市町実行委員会および国民スポーツ大会実施競技中央競技団体（以下「国スポ関係機関・団体」という。）は、参加申込等を通じて取得する個人情報および肖像権の取り扱いについて以下のとおり対応するものとする。

(1) 個人情報の取り扱い

ア 利用目的

大会参加申込として国民スポーツ大会参加申込システムへ登録された個人情報は、国スポ関係機関・団体において、参加資格の確認や競技組合せなどをはじめとする大会運営業務のために利用し、目的以外に利用しない。

イ 公表の範囲と方法

個人情報のうち、所属都道府県、氏名、性別、年齢、学校名、チーム名等、所属と個人を識別するために必要な情報については、以下の方法等により公表することがある。

- (ア) 総合プログラムおよび競技別プログラムへの掲載
- (イ) 競技会場内におけるアナウンス等による紹介
- (ウ) 競技会場内外の掲示板等への掲載
- (エ) 大会関連ホームページへの掲載
- (オ) 報道機関への提供

ウ 競技結果（記録）等

競技結果（記録）については、上記イで定めた個人情報とともに、以下の方法等により公表することがある。

- (ア) わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ実行委員会が設置する記録本部を通じた公開
- (イ) 国スポ関係機関・団体および報道機関等による新聞・雑誌および関連ホームページ等への掲載
- (ウ) 国スポ関係機関・団体が作成する大会報告書等への掲載
- (エ) 次回以降の大会プログラムへの掲載【新記録、優勝および上位入賞結果（記録）等】

(2) 肖像権に関する取り扱い

ア 写真

国スポ関係機関・団体またはこれらに認められた報道機関等によって撮影された写真が、新聞・雑誌・報告書および関連ホームページ等で公開されることがある。

イ 写真（写真撮影企業等）

国スポ関係機関・団体に認められた写真撮影企業等によって撮影された写真等が販売されることがある。

なお、各競技・会場における販売の有無等の詳細は、当該中央競技団体を中心に対応する。

ウ 映像

国スポ関係機関・団体またはこれらに認められた報道機関等によって撮影された映像が、中継・録画放映およびインターネットによって配信されることがある。また、DVD 等に編集され、販売・配付されることがある。

(3) 対応

ア 承諾の確認

大会参加申込として国民スポーツ大会参加申込システムへ登録された時点で、上記取り扱いに関する承諾を得たものとして対応する。

なお、各競技会における取り扱いに伴い、別途、当該中央競技団体等によって個別に承諾を確認することがある。

イ 役員等

大会役員、競技役員、運営役員、その他各種委員や補助員、国スポ関係機関・団体と大会に関する契約をしている者および大会運営関係者については、上記取り扱いに関する承諾を得たものとして対応する。

17 都道府県大会およびブロック大会

正式競技については、本大会の予選として次のとおり都道府県大会（ブロック大会）を開催しなければならない。

(1) 都道府県の主催団体は、必要に応じて日本スポーツ協会および中央競技団体等関係団体と協議の上、本要項に基づき実施要項を作成する。

なお、日本スポーツ協会および中央競技団体は、その内容に不備がある場合、適宜指導を行うものとする。

(2) 都道府県大会の実施にあたり、当該都道府県主催団体は、適正な手続きに則り決定した代表選手の選抜方法・選考基準について、予め関係者に周知徹底を図るものとする。

(3) 参加者は、実施要項に基づき当該主催団体に申込む。

なお、参加は1人1競技に限る。

(4) ブロック大会の申込みは、原則として国民スポーツ大会参加申込システムにより行い、様式は日本スポーツ協会および当該主催団体が協議の上、作成する。

なお、参加申込システムを使用しない場合の様式については、当該主催団体において別途作成する。

(5) 都道府県大会の参加申込様式は、当該主催団体において作成する。

(6) 参加料を徴収する場合の金額は、当該主催団体が中央競技団体と協議の上、定める。

(7) 競技運営に差し支えない限り、滋賀県選手は当該競技ブロック大会を経ることなく本大会に参加することができる。

18 国民スポーツ大会参加者傷害補償制度

日本スポーツ協会および都道府県スポーツ協会は、国民スポーツ大会参加者に対する社会的責任体制を整えるとともに、大会参加者の相互扶助の精神に基づいた補償制度として大会参加者による国民スポーツ大会参加者傷害補償制度を運営する。

(1) 本制度の対象となる参加者は、ブロック大会および本大会に参加する本制度給付規定に定められた選手、監督、選手団本部役員（顧問を含む）、観察員ならびにその他選手団役員とする。

(2) 大会参加の都道府県スポーツ協会は、国民スポーツ大会参加者傷害補償制度の対象となる参加者数に応じた制度負担金（一人あたり1,000円）を、日本スポーツ協会に納入する。

(3) 納入締切日および納入先については、別途日本スポーツ協会から都道府県スポーツ協会へ

通知する。

19 わた SHIGA 輝く国スポの取組

(1) 環境に配慮した大会の実施

スポーツの楽しさや感動を分かち合うとともに、滋賀県に受け継がれている身の回りの生活から自然環境を考える取組を県民や企業、大会に関わるすべての参加者が実践することで、「人と人、人と地域、人と自然」の繋がりを深めることができるよう取り組む。

(2) おもてなしと滋賀の魅力発信

豊かな自然や歴史、文化、芸術、祭り、伝統芸能、特産品などの地域資源、湖上スポーツをはじめとした滋賀ならではのスポーツ環境など、滋賀の魅力を発信し、来県者が滋賀での滞在を楽しむことができるよう取り組む。

(3) 誰もが主役として輝ける取組の推進

年齢や性別、障害の有無などを問わず、誰もが一層身近にスポーツを楽しむことができる環境をつくり、誰もがボランティアや大会関連行事等に積極的に参加できる環境をつくるなど、それぞれのスタイルで「する」「みる」「支える」の体験ができる大会となるよう取り組む。

20 その他

- (1) 参加申込および宿泊申込が、定められた締切日までに行われない場合、または、参加負担金が定められた納入期限までに納入されない場合は、本大会への参加を認めない。
- (2) 大会運営にあたり、選手・観客・大会関係者への安全を最優先に配慮し、気象状況・感染状況・交通状況・テロ行為等の各種災害に伴い、安全確保が見込めないと主催者が判断した場合は、主催者の指示に従うものとする。また、安全確保のために、参加申込システムに登録された以外の個人情報を取得する場合がある。取得した情報については、目的以外に利用しない。
- (3) その他の事項については、国民スポーツ大会開催基準要項および同細則による。

別記1 「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」

- 1 成年種別年齢域の選手は、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項〔国民スポーツ大会開催基準要項第8項第1号および第10項第4号（参加資格および年齢基準等）〕に基づき、下記のいずれかを拠点とした都道府県から参加することができる。
 - (1) 居住地を示す現住所
 - (2) 勤務地
 - (3) ふるさと
- 2 「ふるさと」とは、卒業小学校、卒業中学校または卒業高等学校のいずれかの所在地が属する都道府県とする。

ただし、JOC エリートアカデミーに係る選手については、別に定める「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」第3項により取り扱うものとする。
- 3 我が国の競技力向上を支援する観点より、日本国籍を有する者および「永住者」については、日本における滞在期間に関わらず、本制度を活用できるものとする。ただし、「日本国籍を有する者および『永住者』」に該当しない者であっても、当該大会年の4月30日（冬季大会は前年の4月30日）以前から本大会終了時（冬季大会は各競技会終了時）まで継続的に日本に滞在している場合は、本制度を活用できるものとする。なお、やむを得ない事情により、一時的に日本を離れる場合は、総日数の半数を超えて日本で滞在していること。
- 4 「ふるさと選手制度」を活用し参加を希望する選手は、予め所定の方法により「ふるさと」を登録しなければならない。なお、一度登録した「ふるさと」は変更できないものとする。
- 5 「ふるさと」から参加する選手は、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1)-③(国内移動選手の制限)に抵触しないものとする。
- 6 ふるさと選手制度の活用については、原則として、1回につき2年以上連続とし、利用できる回数は2回までとする。
- 7 参加都道府県は「ふるさと選手」を所定の様式、方法により、当該大会実施要項で定めた参加申込締切期日までに、日本スポーツ協会宛に提出する。

別記2 「『一家転住等』に伴う特例措置」

転校への特例

- 1 次の内容をすべて満たすことにより、国内移動選手の制限（国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1)-(3)）に抵触しないものとする。
 - (1) この特例の対象は、「少年種別」への参加者に限る。
 - (2) 本特例を受けることができるのは、一家転住等やむを得ない理由に限ることとする。
なお「一家転住等」とは概ね次のことを言う。
 - ア 親の転勤による一家の転居
 - イ 親の結婚、離婚による一家の転居
 - ウ 上記以外に、やむを得ない理由による一家の転居
 - (3) 転居した時点に応じて、以下の手続きを終了していること。
 - ア 本特例を受けようとする参加者は、下記2(1)の場合は転居元、下記2(2)の場合は転居先が属する都道府県スポーツ協会および都道府県競技団体に対し、その旨報告すること。
 - イ 報告を受けた都道府県スポーツ協会および都道府県競技団体は、下記2(1)の場合は転居先、下記2(2)の場合は転居元が属する都道府県スポーツ協会および都道府県競技団体に対し、その旨報告し了承を得ること。
- 2 本特例を受ける当該大会において、参加することができる都道府県は以下のとおりとする。
 - (1) 転居した時点において、以下に該当する場合は転居元が属する都道府県から参加することができる。
 - ア 転居先が属する都道府県の代表が既に決定している場合
 - イ 当該参加者が、転居元が属する都道府県の代表として既に決定している場合
 - ウ 当該参加者が、転居元が属する都道府県の代表選考過程にある場合
 - (2) 転居した時点において、以下に該当する場合は転居先が属する都道府県から参加することができる。
 - ア 転居元が属する都道府県において、当該大会における都道府県代表の選考が開始されていない場合

別記3 「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」

公益財団法人日本オリンピック委員会が実施する「JOC エリートアカデミー」に係る選手のうち、下記1に該当する者については、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項〔国民スポーツ大会開催基準要項第8項第1号および第10項第4号（参加資格および年齢基準等）〕および別記1「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」に関し、次の2～4の特例を適用する。

1 対象者

- (1) 少年種別年齢域の選手で JOC エリートアカデミーに在籍する者
- (2) 成年種別年齢域の選手で JOC エリートアカデミーを修了した者、または同アカデミーに在籍する者

2 少年種別年齢域の選手の所属都道府県

本特例第1項-(1)に定める少年種別年齢域の選手は、その所属都道府県について、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-2) - ②に定める「居住地を示す現住所」、「学校教育法第1条に規定する学校の所在地」、「勤務地」のほか、卒業小学校の所在地が属する都道府県を選択することができる。

なお、同アカデミーへの入校時において小学生であった場合には、入校する直前まで通学していた小学校の所在地が属する都道府県を選択することができる。

3 成年種別年齢域の選手の「ふるさと」

本特例第1項-(2)に定める成年種別年齢域の選手は、別記1「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」第2項に定める卒業小学校、卒業中学校または卒業高等学校のいずれかの所在地が属する都道府県のほか、同アカデミーでの入校時において小学生であった場合には、入校する直前まで通学していた小学校の所在地が属する都道府県を「ふるさと」とすることができる。

4 国内移動選手の制限に係る例外適用

本特例第1項-(1)に定める少年種別年齢域の選手が前回の大会（都道府県大会を含む）と異なる都道府県から参加する場合、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1) - ③（国内移動選手の制限）に抵触しないものとする。

[注] 本特例第1項-(2)に定める成年種別年齢域の選手については、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1) - ③（国内移動選手の制限）の規定に従い取り扱うものとする。

5 その他

中央競技団体が国際競技力向上施策として独自に実施するアカデミー事業については、当該中央競技団体からの申請を踏まえ、当該事業の内容が JOC エリートアカデミーに準拠し実施されていることが、公益財団法人日本オリンピック委員会により確認された場合に限り、当該事業を本特例の対象に加えることができる。

別記4 「トップアスリートの国民スポーツ大会参加資格の特例措置」

我が国の競技力向上を支援する観点より、一定の競技力を有する選手に対して、「トップアスリートの国民スポーツ大会参加資格の特例措置（以下「本特例」という。）」を下記のとおり定める。

1 特例の対象となる選手

本特例の対象となる選手は、下記の条件のいずれかを満たす者とする。

- (1) 第33回オリンピック競技大会（2024年・パリ）に参加した者。
- (2) 2025年4月30日時点で、下記のいずれかに該当し、各中央競技団体が本特例の対象として認めた者
 - ア JOC オリンピック強化指定選手
 - イ 各競技（種目）における国内ランキング上位10位以内の者
 - ウ 中央競技団体が定めた強化指定選手

※ 強化指定ランクについては、各競技における全日本選手権大会入賞レベル以上のカテゴリーを対象とする。

2 特例の内容

(1) 予選会の免除

本特例の対象となる選手については、都道府県予選会およびブロック大会を経ずに国民スポーツ大会本大会に参加することができるものとする。ただし、ブロック大会実施競技種目・種別においては、当該都道府県代表選手またはチームがブロック大会に参加し、本大会参加枠を獲得している場合とする。

(2) 資格要件（日数要件の緩和）

本特例の対象となる選手が所属都道府県として「居住地を示す現住所」または「勤務地」を選択する場合は、日数に関する要件を定めないこととし、以下のとおりとする。

ア 居住地を示す現住所

次の要件をいずれも満たすものとする。

- (ア) 2025年4月30日以前から大会終了時（2025年10月8日）まで引き続き、住民票記載の住所に存する都道府県において生活している実態があり、当該都道府県以外（海外を含む）において生活している実態がないこと。

なお、生活の実態については、下記要件により判断する。

- a 自ら所有する住居、または自らの名義で住居を賃借していること
- b 当該住居に生計を一にする家族と共に住んでいること
- c 当該住居の水道光熱費など費用を自ら負担していること
- d 当該住居に主要な家財道具が存すること

- (イ) 合宿、試合等により当該都道府県外で活動を行う場合、当該都道府県を移動の起点としていること。

イ 勤務地

次の要件をいずれも満たすものとする。

- (ア) 2025年4月30日以前から大会終了時（2025年10月8日）まで引き続き、雇用主と雇用契約を締結した上で、当該都道府県内に存する雇用主の会社や事業所等に現実に通勤し、勤務していること。

- (イ) 当該都道府県内で、競技普及活動等の事業に参加すること。

3 国内移動選手の制限

本特例の対象となる選手の国内移動選手の制限については、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1)-③のとおりとする。

別記5 「東日本大震災に係る選手および監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」

1 特例の対象となる被災地域都道府県

震災による被害状況および影響等を総合的に勘案し、青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県の6県を本特例の適用対象となる被災地域都道府県（以下「特例対象県」という。）とする。

なお、特例対象県以外の都道府県において対応が必要となった場合は、個別に取り扱うこととする。

2 特例の内容

(1) 特例対象県を所属都道府県とする場合の要件緩和

以下の選手および監督については、「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」の各要件を満たしていなくとも、当該特例対象県から参加することができる。

【特例の対象者】

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県における「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」の各要件を満たすことができなくなった者。

ただし、以下の事項のいずれにも該当していること。

ア 2011年3月11日（震災発生時）時点において、当該特例対象県内に居住または勤務していた者。もしくは当該特例対象県内の「学校教育法」第1条に規定する学校に在籍していた者であること。

イ 災害が発生しなかったと仮定した場合、2025年4月30日以前から大会終了時（2025年10月8日）まで継続して当該特例対象県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」とする要件を満たしていたと合理的に推測される者であること。

(2) 避難等による移動先の都道府県を所属都道府県とする場合の要件緩和

ア 被災地域からの避難等により、当該特例対象県と異なる都道府県に移動した以下の選手および監督については、移動先の都道府県から参加することができる。

なお、この場合、2023年開催の特別大会または第78回大会に当該特例対象県から参加していても、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1)-(3)（国内移動選手の制限）には抵触しないものとする。

【特例の対象者】

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県から移動せざるを得なかった者。

ただし、以下の事項のいずれにも該当していること。

（ア） 2011年3月11日時点において、当該特例対象県内に居住または勤務していた者。もしくは当該特例対象県内の「学校教育法」第1条に規定する学校に在籍していた者であること。

（イ） 移動先の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」とする要件を満たしていること。

なお、移動が生じた時期が2025年4月30日以降の場合は、移動先の都道府県の予選会開始までに要件を満たしていることとする。

[注] 「居住地を示す現住所」および「学校所在地」として参加を希望する者について

は、当該自治体への住所に関する届出または学籍に係る要件を満たしていないとも、それに準ずる公的な証明書類を提出でき、かつ移動先の都道府県に居住あるいは通学している実態を有していると日本スポーツ協会が認めた場合、移動先の都道府県から出場することができる。

イ 本項アを適用して避難等による移動先の都道府県から第78回大会または第79回大会に参加した者が、第80回大会において、以下のような震災にかかる理由により再度都道府県を移動して参加する場合は、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1)-③(国内移動選手の制限)には抵触しないものとする。

＜例＞ ○ 避難先を離れ、当該特例対象県に戻る場合

○ 避難先を離れ、他の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」とする場合

○ 他の都道府県に避難先を移す場合

(3) 避難等による移動先の属する都道府県において学校を卒業した場合の「ふるさと」選択要件の緩和

避難等による移動先の属する都道府県において小学校、中学校または高等学校を卒業した者が、成年種別年齢域に達した際、「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」を活用して参加する場合、以下のいずれかを「ふるさと」として登録することができる。

ア 卒業小学校、卒業中学校または卒業高等学校の所在地

イ 災害の発生した時点で在籍していた小学校、中学校または高等学校の所在地

なお、本特例を適用して上記イの学校所在地を「ふるさと」として登録した場合についても、卒業小学校、卒業中学校または卒業高等学校の所在地を「ふるさと」とする場合と同様、一度登録した「ふるさと」は変更できない。

【特例の対象者】

2011年度から2012年度（小学校は2015年度）までに、避難等による移動先の属する都道府県において小学校、中学校または高等学校を卒業した者。

別記6 「能登半島地震に係る選手および監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」

1 特例の対象となる被災地域都道府県

震災による被害状況および影響等を総合的に勘案し、新潟県、富山県、石川県、福井県の4県を本特例の適用対象となる被災地域都道府県（以下「特例対象県」という。）とする。

なお、特例対象県以外の都道府県において対応が必要となった場合は、個別に取り扱うこととする。

2 特例の内容

(1) 特例対象県を所属都道府県とする場合の要件緩和

以下の選手および監督については、「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」の各要件を満たしていなくとも、当該特例対象県から参加することができる。

【特例の対象者】

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県における「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」の各要件を満たすことができなくなった者。

ただし、以下の事項のいずれにも該当していること。

ア 2024年1月1日（震災発生時）時点において、当該特例対象県内に居住または勤務していた者。もしくは当該特例対象県内の「学校教育法」第1条に規定する学校に在籍していた者であること。

イ 災害が発生しなかったと仮定した場合、2025年4月30日以前から当該大会終了時（2025年10月8日）まで継続して当該特例対象県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」とする要件を満たしていたと合理的に推測される者であること。

(2) 避難等による移動先の都道府県を所属都道府県とする場合の要件緩和

ア 被災地域からの避難等により、当該特例対象県と異なる都道府県に移動した以下の選手および監督については、移動先の都道府県から参加することができる。

なお、この場合、2023年開催の特別大会または第78回大会に、当該特例対象県から参加していても、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1)-(3)（国内移動選手の制限）には抵触しないものとする。

【特例の対象者】

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県から移動せざるを得なかつた者。

ただし、以下の事項のいずれにも該当していること。

（ア） 2024年1月1日時点において、当該特例対象県内に居住または勤務していた者。もしくは当該特例対象県内の「学校教育法」第1条に規定する学校に在籍していた者であること。

（イ） 移動先の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」とする要件を満たしていること。

なお、移動が生じた時期が2025年4月30日以降の場合は、移動先の都道府県の予選会開始までに要件を満たしていることとする。

[注] 「居住地を示す現住所」および「学校所在地」として参加を希望する者については、当該自治体への住所に関する届出または学籍に係る要件を満たしていなくとも、それに準ずる公的な証明書類を提出でき、かつ移動先の都道府県に居住あるいは通学して

いる実態を有していると日本スポーツ協会が認めた場合、移動先の都道府県から出場することができる。

イ 本項アを適用して避難等による移動先の都道府県から第78回大会または第79回大会に参加した者が、第80回大会において、以下のような震災に係る理由により再度都道府県を移動して参加する場合は、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1) -③(国内移動選手の制限)には抵触しないものとする。

- <例>
- 避難先を離れ、当該特例対象県に戻る場合
 - 避難先を離れ、他の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」とする場合
 - 他の都道府県に避難先を移す場合

(3) 避難等による移動先の属する都道府県において学校を卒業した場合の「ふるさと」選択要件の緩和

避難等による移動先の属する都道府県において小学校、中学校または高等学校を卒業した者が、成年種別年齢域に達した際、「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」を活用して参加する場合、以下のいずれかを「ふるさと」として登録することができる。

ア 卒業小学校、卒業中学校または卒業高等学校の所在地

イ 災害の発生した時点で在籍していた小学校、中学校または高等学校の所在地

なお、本特例を適用して上記イの学校所在地を「ふるさと」として登録した場合についても、卒業小学校、卒業中学校または卒業高等学校の所在地を「ふるさと」とする場合と同様、一度登録した「ふるさと」は変更できない。

【特例の対象者】

2024年度から2025年度（小学校は2028年度）までに、避難等による移動先の属する都道府県において小学校、中学校または高等学校を卒業した者。

ソフトテニス競技

1 期 日 2025年10月3日（金）から10月6日（月）まで（4日間）

種 別	10月3日（金）	10月4日（土）	10月5日（日）	10月6日（月）
成年男子	1回戦 準々決勝	準決勝 決勝 3～8位決定戦		
成年女子	1・2・3回戦	準々決勝 準決勝 決勝 3～8位決定戦		
少年男子			1・2回戦 準々決勝	準決勝 決勝 3～8位決定戦
少年女子			1・2回戦 準々決勝	準決勝 決勝 3～8位決定戦

2 会 場 長浜市（全種別） 長浜城テニスガーデン（長浜市民庭球場）

3 種別及び参加人員

種 別	監 督	選 手	参加都道府県	小 計	合 計（人）
成年男子	1	5	16	96	648
成年女子	1	5	47	282	
少年男子	1	5	21	126	
少年女子	1	5	24	144	

4 競技上の規程及び方法

- (1) 競技は全て公益財団法人日本ソフトテニス連盟ソフトテニスハンドブックにより行う。
- (2) 試合方法について
 - ア 各種別とも点取り法によるダブルス2ペア・シングルス1名によるチーム対抗戦とし、マッチは全て7ゲームとする。
 - イ 対戦はダブルス・シングルス・ダブルスの順とする。ただし、1対戦中選手は重複して出場できない。
 - ウ 対戦の都度オーダーを変えてよい。
 - エ メンバーに欠員が生じた場合のオーダーは、ダブルス・シングルスの順に出場しなければならない。
 - オ 各種別ともトーナメント方式によって勝敗を決める。ただし、天候その他の事情により変更することもある。
 - カ 対戦するチームが初回戦の場合はダブルス・シングルス・ダブルス全ての試合を行うが、それ以降は2点先取制とする。ただし、天候その他の事情により変更することもある。

(3) 監督について

ア 各種別に監督を配置し、他種別と兼ねることはできない。

イ 監督を選手が兼ねることはできない。

(4) 選手・監督の交代について

ア 選手・監督の交代は、原則として認めない。ただし、特別な事情があるときは、その理由を明記して監督会議開始前までに、当該都道府県スポーツ協会会長・競技団体会長から選手交代届を総則8-(6)のとおりに提出し、承認された者に限り出場できる。

イ 選手と監督の入替えは認めない。

5 予選方法

(1) 都道府県連盟は、種別ごとに都道府県大会を実施し、ブロック大会に出場するチームを決定する。

(2) 各ブロック大会主管連盟は、本大会実施要項に準じてブロック大会を実施し、本大会に出場する代表を決定する。ただし、成年女子の代表はブロック大会を行わないで本大会に出場できる。

(3) ブロック大会の所属都道府県及びその選抜チーム数は、下表のとおりとする。

ブロック名	都道府県名	成年男子	少年男子	少年女子
北海道	北海道	1	1	1
東北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島	2	2	3
関東	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨	2	3	4
北信越	新潟、長野、富山、石川、福井	2	2	2
東海	静岡、愛知、三重、岐阜	1	1	2
近畿	京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山	2	3	3
中国	鳥取、島根、岡山、広島、山口	2	2	2
四国	香川、徳島、愛媛、高知	1	2	2
九州	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄	2	4	4
開催県	滋賀	1	1	1
計		16	21	24

6 参加資格、所属都道府県及び選手の年齢基準

総則5に定めるものとする。

なお、少年種別に参加できる選手には、2010年4月2日から2011年4月1日までの間に生まれた中学3年生を含むものとする。

また、監督は、公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度に基づく、公認ソフトテニスコーチ1、公認ソフトテニスコーチ2、公認ソフトテニスコーチ3、公認ソフトテニスコーチ4のいずれかの資格を有していること。

7 総合成績決定方法

男女総合成績（天皇杯得点）及び女子総合成績（皇后杯得点）は、競技得点と参加得点の合計とし、その得点の多い都道府県順に第1位から第8位までを決定する。

ただし、同点の場合は、その順位を共有し、次の順位を欠位とする。

(1) 競技得点

天皇杯対象種別	皇后杯対象種別	競技得点
成年男子		各種別とも1位40点、2位35点、3位30点、4位25点、5位20点、6位15点、7位10点、8位5点の競技得点を与える。
成年女子	成年女子	
少年男子	少年女子	ただし、4-(2)オにより同順位の場合は、その順位を共有し、次の順位を欠位とする。なお、得点は次の順位のものを加え、当該都道府県で等分する。
少年女子		

(2) 参加得点

大会（ブロック大会を含む）に参加した都道府県に10点を与える。ただし、ブロック大会で本大会の出場権を獲得しながら、本大会に参加しなかった場合は与えない。

8 表彰

- (1) 男女総合成績及び女子総合成績第1位から第8位までの都道府県に、表彰状を授与する。
- (2) 男女総合成績第1位の都道府県に、大会会長トロフィーを授与する。
- (3) 各種別の第1位から第8位までに、賞状を授与する。

9 参加申込み方法

総則8に定めるもののほか、次による。

- (1) 所定のWebページ（国民スポーツ大会参加申込システム）へアクセスし、必要項目を入力の上、所属都道府県スポーツ協会を通じて、2025年9月4日（木）までに申込み手続きを完了すること。
- (2) 締切期限以降は、所定のWebページ（国民スポーツ大会参加申込システム）へアクセスできなくなるので、締切期限を厳守すること。
- (3) 参加申込み締切後の選手・監督変更は、疾病、傷害等の特別な場合のみ認めるものとし、監督会議開始前までに下記ア、イ、ウ宛にそれぞれ文書をもって届け出なければならない。
ア 〒140-0014 東京都品川区大井一丁目16番地2号201号室
公益財団法人日本ソフトテニス連盟
TEL 03-6417-1654 FAX 03-6417-1664
イ 〒520-0807 滋賀県大津市松本一丁目2番1号
わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ実行委員会事務局
(滋賀県国スポ・障スポ大会局 競技運営室 競技第一係)
TEL 077-528-3324 FAX 077-528-4836
Email : kokusupo-sanka@pref.shiga.lg.jp
ウ 〒526-8501 滋賀県長浜市大島町37番地
わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ長浜市実行委員会事務局
(市民協働部 国スポ・障スポ大会推進室 競技運営係)
TEL 0749-65-6303 FAX 0749-65-6703
Email : nagahama2025@city.nagahama.lg.jp

なお、イ、ウについては、原則メールにて提出とする。また、公益財団法人日本スポーツ協会に対しては、大会終了後、別途、所定の手続きにより、参加申込情報を修正すること。

10 参加上の注意

各都道府県の代表選手は、競技の際に、必ず開催地作成のゼッケン（都道府県名・苗字を記載）を着用すること。

11 その他

(1) 組合せ抽選会

日 時 2025年9月7日（日） 午後1時30分
場 所 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 公益財団法人日本スポーツ協会会議室
TEL 03-6417-1654 FAX 03-6417-1664

(2) 公式練習（全種別）

日 時 2025年10月2日（木）
場 所 長浜城テニスガーデン（長浜市民庭球場）
〒526-0065 長浜市公園町10-57
TEL 0749-62-0020 FAX 0749-62-0023
なお、コート割りについては別途通知する。

(3) 本部役員打合せ会議

日 時 2025年10月2日（木） 午後2時
場 所 長浜文化芸術会館 2F 会議室
〒526-0066 長浜市大島町37番地
TEL 0749-63-7400 FAX 0749-63-7401

(4) 監督会議

日 時 2025年10月2日（木） 午後3時
場 所 長浜文化芸術会館 大ホール
〒526-0066 長浜市大島町37番地
TEL 0749-63-7400 FAX 0749-63-7401

(5) 表彰式

（成年男女）

日 時 2025年10月4日（土） 全対戦終了30分後
場 所 長浜城テニスガーデン（長浜市民庭球場）
〒526-0065 長浜市公園町10-57
TEL 0749-62-0020 FAX 0749-62-0023

（少年男女・総合）

日 時 2025年10月6日（月） 全対戦終了30分後
場 所 長浜城テニスガーデン（長浜市民庭球場）
〒526-0065 長浜市公園町10-57
TEL 0749-62-0020 FAX 0749-62-0023

表 彰 式 次 第

種別表彰式 (成年男子・成年女子)

日 時 令和7年10月4日（土）
競技終了30分後

会 場 長浜城テニスガーデン
※雨天時は長浜市文化芸術会館

種別表彰式・総合表彰式 (少年男子・少年女子)

日 時 令和7年10月6日（月）
競技終了30分後

会 場 長浜城テニスガーデン
※雨天時は長浜市文化芸術会館

順序	次 第
	選手・役員整列完了
1	開式通告
2	種別成績発表
3	賞状授与・副賞贈呈
4	競技会会長あいさつ
5	歓送のことば
6	閉式通告
	選手・役員解散

順序	次 第
	選手・役員整列完了
1	開式通告
2	種別成績発表
3	賞状授与・副賞贈呈
4	総合成績発表
5	表彰状授与
6	大会会長トロフィー授与
7	競技会会長あいさつ
8	歓送のことば
9	国旗・諸旗儀礼
10	競技会終了宣言
11	閉式通告
	選手・役員解散

[16] ソフトテニス競技

競技日程

長浜市

競技会場：長浜城テニスガーデン supported by HEISHIN（長浜市民庭球場）			
10月3日（金）	10月4日（土）	10月5日（日）	10月6日（月）
受付完了（成年男子）9:30 競技開始（成年男子）10:45	受付完了 8:00 競技開始 9:00	受付完了 8:00 競技開始 9:00	受付完了 8:00 競技開始 9:00
受付完了（成年女子）8:00 競技開始（成年女子）9:00			
成年男子	成年男子	少年男子	少年男子
1回戦 10:45～12:30 (8試合)	準決勝、5～8位順位戦 9:00～10:45 (4試合) 3～8位決定戦 10:45～12:30 (3試合)	1回戦 9:00～10:45 (5試合) 2回戦 10:45～12:30 (8試合)	準決勝、5～8位順位戦 9:00～10:45 (4試合) 3～8位決定戦 10:45～12:30 (3試合)
準々決勝 12:30～14:15 (4試合)	決勝戦 12:30～14:15 (1試合)	準々決勝 12:30～14:15 (4試合)	決勝戦 12:30～14:15 (1試合)
成年女子	成年女子	少年女子	少年女子
1回戦 9:00～10:45 (15試合)	準々決勝 9:00～10:45 (4試合)	1回戦 9:00～10:45 (8試合)	準決勝・5～8位順位戦 9:00～10:45 (4試合)
2回戦 10:45～12:30 (8試合)	準決勝・5～8位順位戦 10:45～12:30 (4試合)	2回戦 10:45～12:30 (8試合)	3～8位決定戦 10:45～12:30 (3試合)
12:30～14:15 (8試合)	決勝戦・3～8位決定戦 12:30～14:15 (4試合)	準々決勝 12:30～14:15 (4試合)	決勝戦 12:30～14:15 (1試合)
3回戦 14:15～16:00 (8試合)			
	種別表彰式 (全対戦終了30分後)		種別・総合表彰式 (全対戦終了30分後)

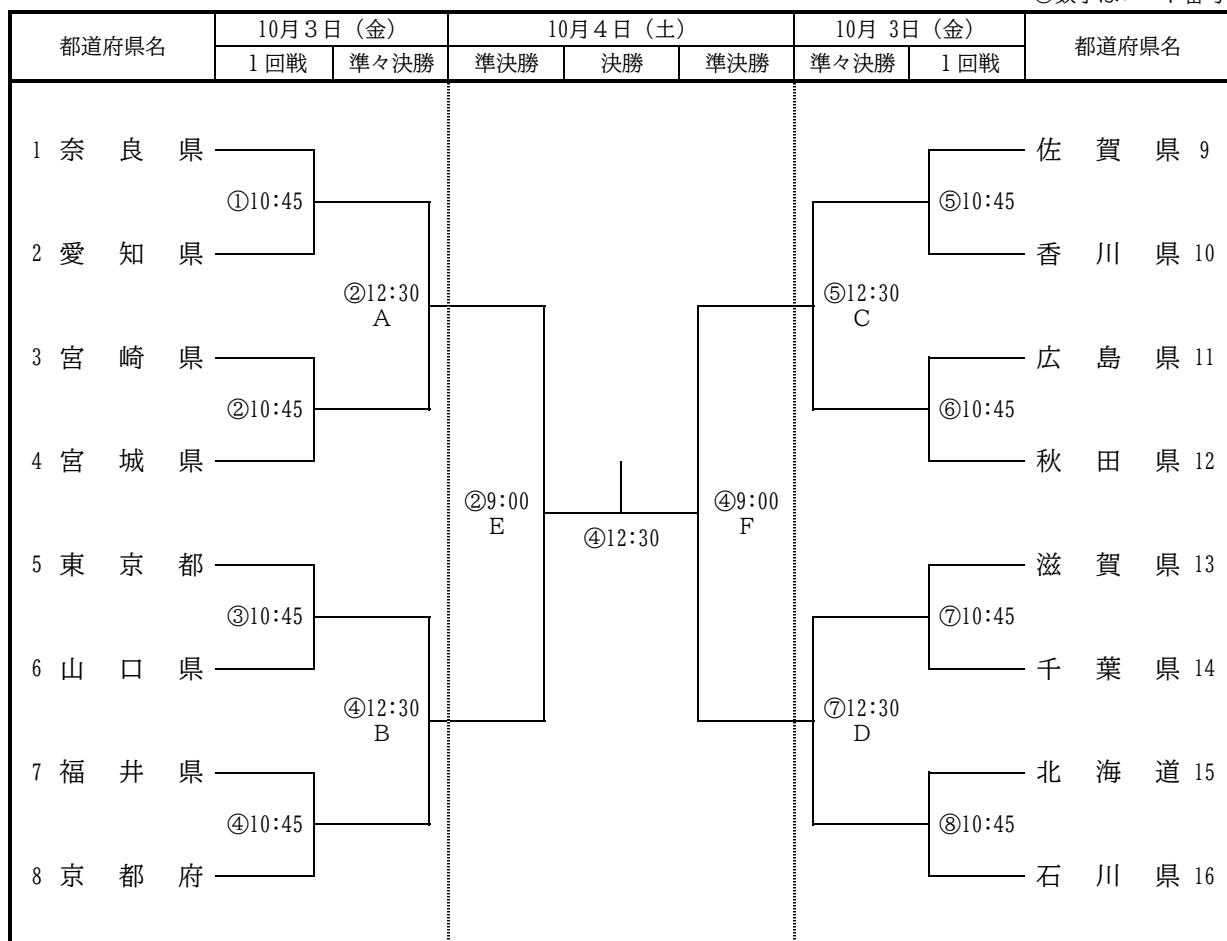
会議日程

会議名	日時	場所
本部役員打合せ会議	10月2日（木）14時00分	長浜文化芸術会館 2F会議室
監督会議	10月2日（木）15時00分	長浜文化芸術会館 大ホール
開始式	10月2日（木）16時00分	長浜文化芸術会館 大ホール

ソフトテニス競技 組合せ表

【成年男子】

○数字はコート番号



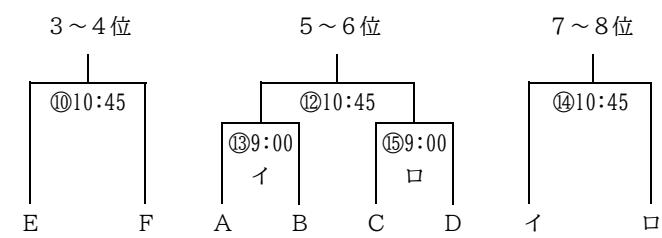
10月4日(土)

都道府県名	決勝	都道府県名
.	-	.
.	-	
.	-	.
	対	

都道府県名	準決勝	都道府県名
.	-	.
.	-	
.	-	.
	対	

都道府県名	準決勝	都道府県名
.	-	.
.	-	
.	-	.
	対	

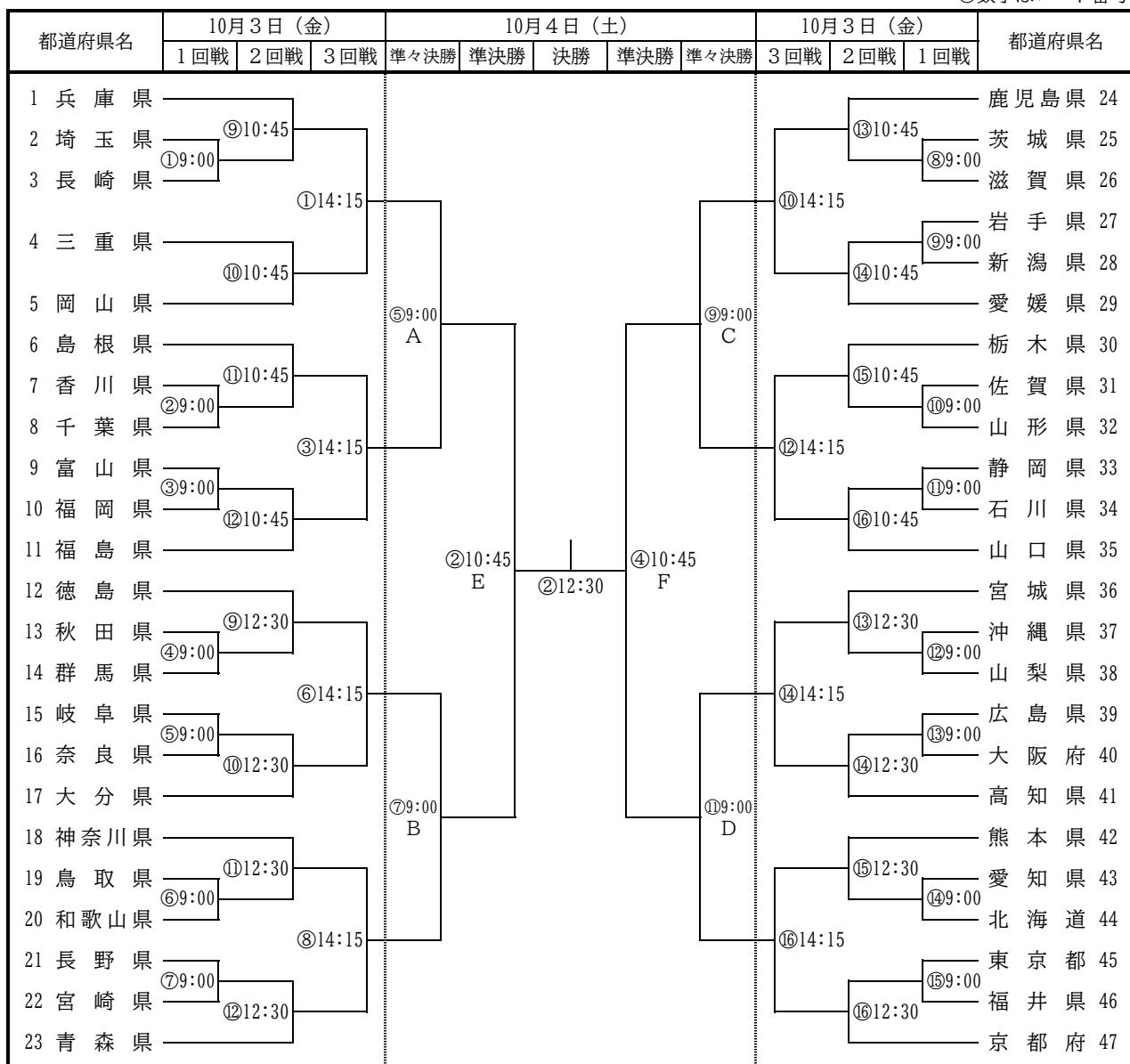
都道府県名	3・4位 決定戦	都道府県名
.	-	.
.	-	
.	-	.
	対	



ソフトテニス競技 組合せ表

【成年女子】

○数字はコート番号



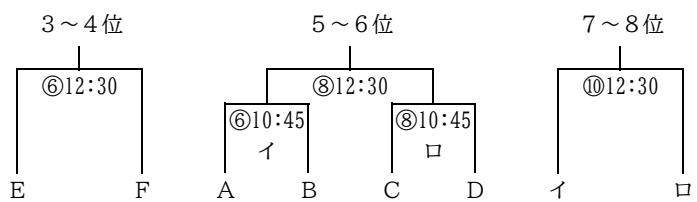
10月4日(土)

都道府県名	決勝	都道府県名
・	-	・
・	-	
・	-	・
	対	

都道府県名	準決勝	都道府県名
・	-	・
・	-	
・	-	・
	対	

都道府県名	準決勝	都道府県名
・	-	・
・	-	
・	-	・
	対	

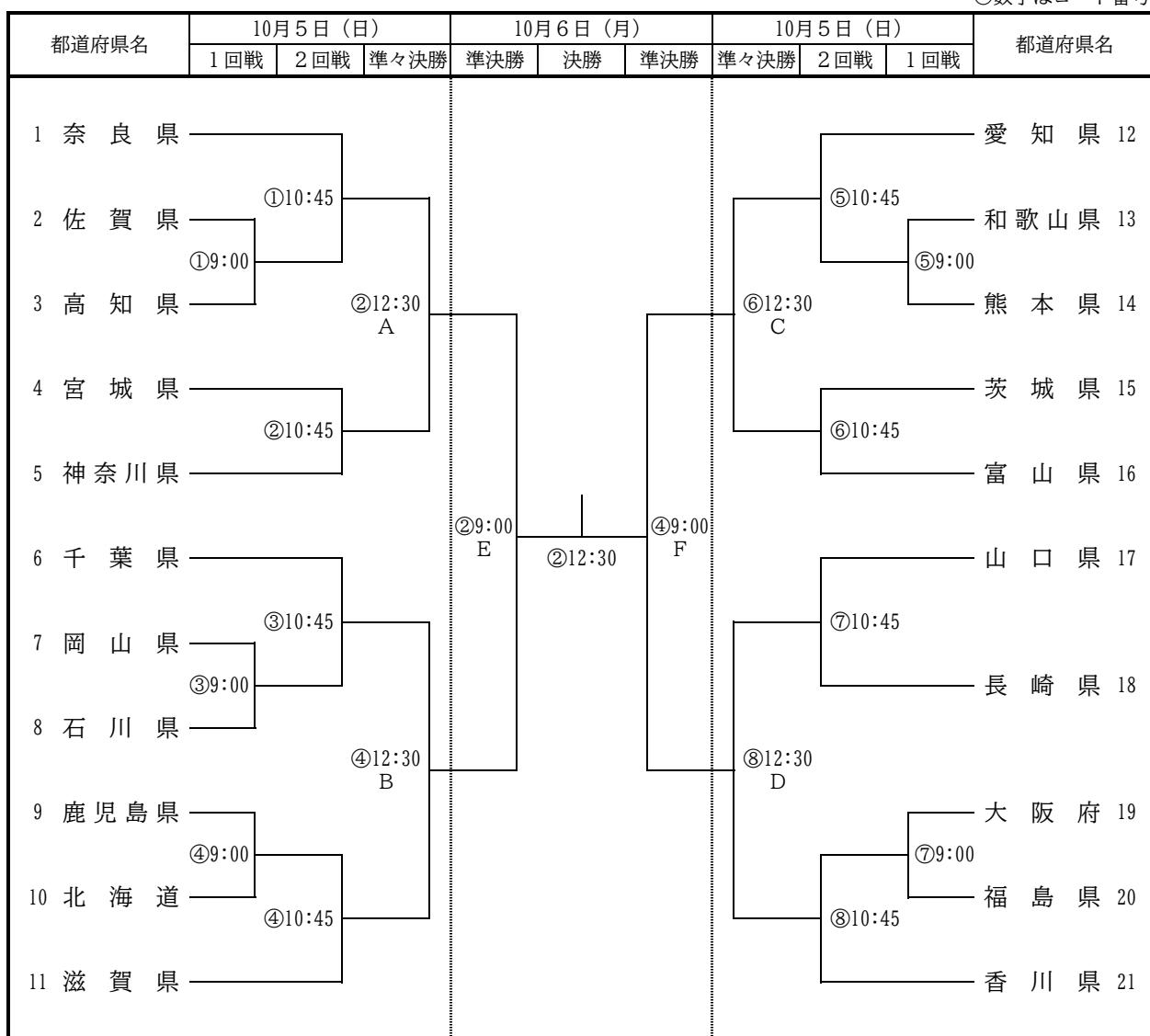
都道府県名	3~4位 決定戦	都道府県名
・	-	・
・	-	
・	-	・
	対	



ソフトテニス競技 組合せ表

【 少 年 男 子 】

○数字はコート番号



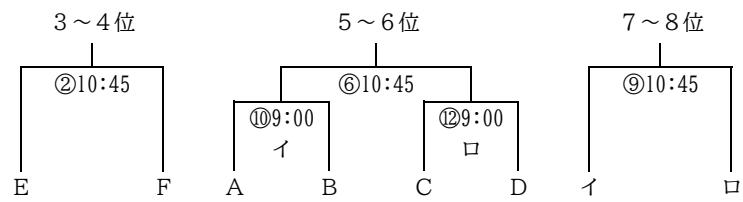
10月6日(月)

都道府県名	決勝	都道府県名
.	-	.
-		
.	-	.
対		

都道府県名	準決勝	都道府県名
.	-	.
-		
.	-	.
対		

都道府県名	準決勝	都道府県名
.	-	.
-		
.	-	.
対		

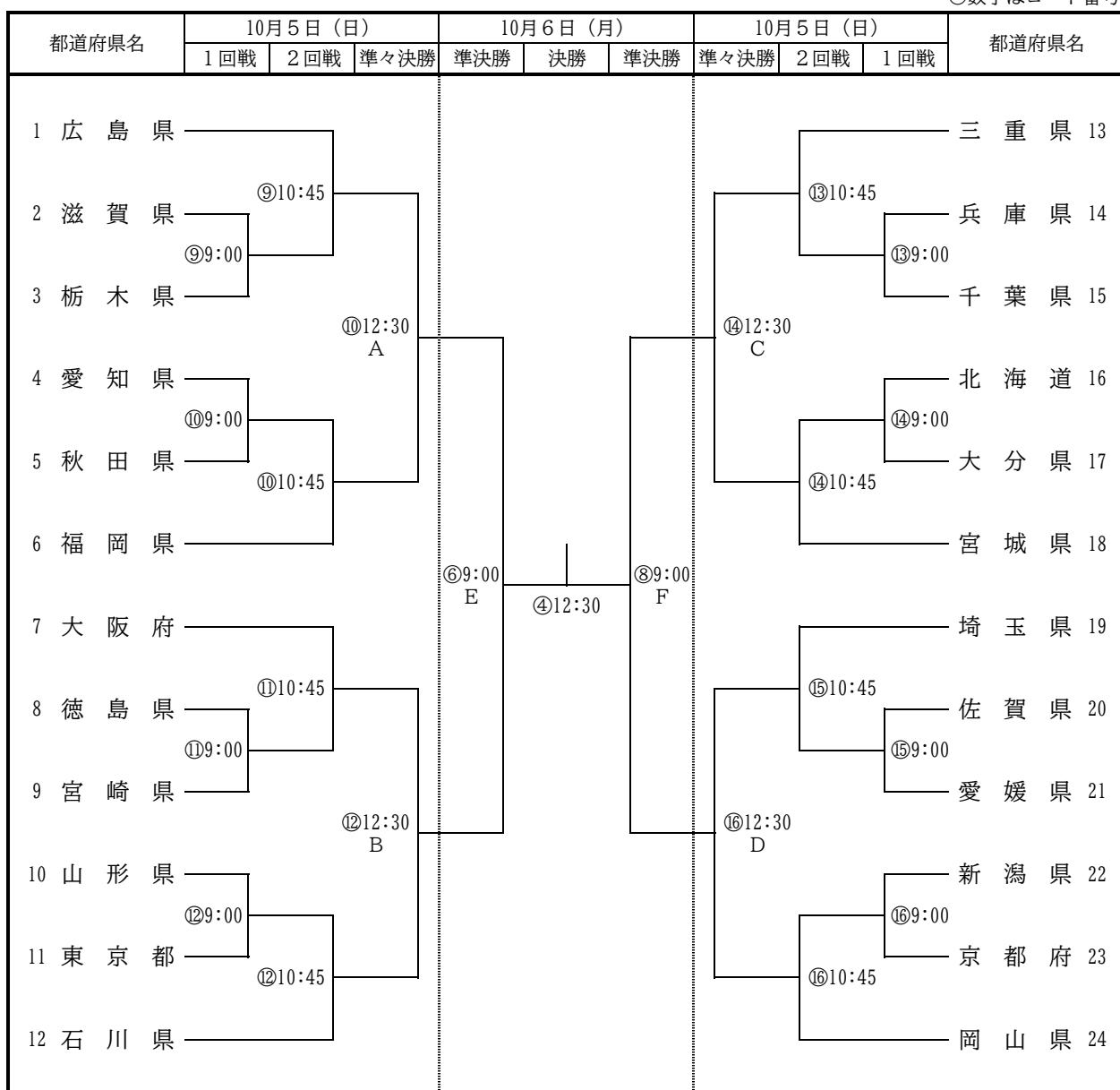
都道府県名	3・4位 決定戦	都道府県名
.	-	.
-		
.	-	.
対		



ソフトテニス競技 組合せ表

【 少 年 女 子 】

○数字はコート番号



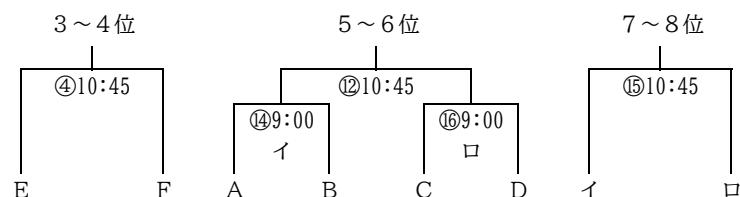
10月6日(月)

都道府県名	決勝	都道府県名
.	-	.
.	-	
.	-	.
	対	

都道府県名	準決勝	都道府県名
.	-	.
.	-	
.	-	.
	対	

都道府県名	準決勝	都道府県名
.	-	.
.	-	
.	-	.
	対	

都道府県名	3・4位 決定戦	都道府県名
.	-	.
.	-	
.	-	.
	対	



競技進行表
(成年男子・成年女子)

10月3日(金)

種別・時間	1コート	2コート	3コート	4コート	5コート	6コート	7コート	8コート	9コート	10コート	11コート	12コート	13コート	14コート	15コート	16コート
成女1回戦 9:00~10:45	成年女子 2~3	成年女子 7~8	成年女子 9~10	成年女子 13~14	成年女子 15~16	成年女子 19~20	成年女子 21~22	成年女子 25~26	成年女子 27~28	成年女子 31~32	成年女子 33~34	成年女子 37~38	成年女子 39~40	成年女子 43~44	成年女子 45~46	
成男1回戦・成女2回戦 10:45~12:30	成年男子 1~2	成年男子 3~4	成年男子 5~6	成年男子 7~8	成年男子 9~10	成年男子 11~12	成年男子 13~14	成年男子 15~16	成年男子 1~3	成年男子 4~5	成年男子 6~8	成年男子 9~11	成年男子 24~26	成年男子 27~29	成年男子 30~32	成年女子 33~35
成男準々戦・成女2回戦 12:30~14:15	成年男子 1~4	成年男子 5~8	成年男子 9~12	成年男子 13~16	成年男子 12~14	成年男子 15~17	成年男子 18~20	成年男子 21~23	成年男子 18~20	成年男子 21~23	成年男子 22~24	成年男子 23~25	成年男子 24~26	成年男子 27~29	成年男子 30~32	成年女子 33~35
成女3回戦 14:15~16:00	成年女子 1~5	成年女子 6~11	成年女子 6~11	成年女子 12~17	成年女子 18~23	成年女子 24~29	成年女子 30~35	成年女子 36~41	成年女子 36~41	成年女子 36~41	成年女子 36~41	成年女子 36~41	成年女子 36~41	成年女子 42~47	成年女子 42~47	

10月4日(土)

種別・時間	1コート	2コート	3コート	4コート	5コート	6コート	7コート	8コート	9コート	10コート	11コート	12コート	13コート	14コート	15コート	16コート
成男準決勝・順位戦 成女準々決勝 9:00~10:45	成年男子 1~8	成年男子 準決勝 9~16	成年男子 9~16	成年男子 1~11	成年女子 準々決勝 12~23	成年女子 準々決勝 24~35	成年女子 準々決勝 36~47									
成男順位戦 成女準決戦・順位戦 10:45~12:30	成年女子 1~23	成年女子 24~47	成年女子 A~B	成年女子 C~D	成年女子 順位戦 C~D	成年女子 順位戦 E~F										
成男決勝 成女決戦・順位戦 12:30~14:15	成年女子 決勝 24~47	成年女子 決勝 1~16	成年女子 3~4位決定 E~F	成年女子 5~6位決定 A~D	成年女子 7~8位決定 A~D											
14:15~ 14:45~ 16:00~	表彰式 国スポイベント	表彰式 国スポイベント	表彰式 国スポイベント	表彰式 国スポイベント	表彰式 国スポイベント	表彰式準備 国スポイベント										

※ 進行状況によりコート変更する場合があります。※ 進行状況により複数面展開する場合があります。

競技進行表 (少年男子・少年女子)

10月5日(日)

種別・時間	1コート	2コート	3コート	4コート	5コート	6コート	7コート	8コート	9コート	10コート	11コート	12コート	13コート	14コート	15コート	16コート
少男・少女1回戦 9:00~10:45	少年男子	少年男子	少年男子	少年男子	少年男子	少年男子	少年男子	少年男子	少年男子	少年男子	少年女子	少年女子	少年女子	少年女子	少年女子	少年女子
	2~3	7~8	9~10	13~14	19~20	2~3	4~5	8~9	10~11	14~15	16~17	20~21	22~23			
少男・少女2回戦 10:45~12:30	少年男子	少年男子	少年男子	少年男子	少年男子	少年男子	少年男子	少年男子	少年男子	少年男子	少年女子	少年女子	少年女子	少年女子	少年女子	少年女子
	1~3	4~5	6~8	9~11	12~14	15~16	17~18	19~21	1~3	4~6	7~9	10~12	13~15	16~18	19~21	22~24
少男・少女準々決勝 12:30~14:15	少年男子	少年男子	少年男子	少年男子	少年男子	少年男子	少年男子	少年男子	少年男子	少年男子	少年女子	少年女子	少年女子	少年女子	少年女子	少年女子
	1~5			6~11		12~16		17~21		1~6	7~12	13~18				19~24

10月6日(月)

種別・時間	1コート	2コート	3コート	4コート	5コート	6コート	7コート	8コート	9コート	10コート	11コート	12コート	13コート	14コート	15コート	16コート
少男・少女準決勝 順位戦 9:00~10:45	少年男子 準決勝 1~11	少年男子 準決勝 12~21	少年女子 準決勝 1~12	少年女子 準決勝 13~24	少年男子 順位戦 A~B	少年男子 順位戦 C~D	少年女子 順位戦 A~B	少年男子 順位戦 C~D	少年女子 順位戦 A~B	少年男子 順位戦 C~D	少年女子 順位戦 A~B	少年男子 順位戦 C~D	少年女子 順位戦 A~B	少年女子 順位戦 C~D	少年女子 順位戦 C~D	少年女子 順位戦 C~D
	少年男子 3・4位決定 E~F	少年男子 3・4位決定 E~F	少年女子 3・4位決定 E~F	少年男子 5・6位決定 A~D	少年男子 7・8位決定 A~D	少年女子 5・6位決定 A~D	少年男子 7・8位決定 A~D	少年女子 7・8位決定 A~D	少年男子 5・6位決定 A~D	少年女子 5・6位決定 A~D	少年男子 7・8位決定 A~D	少年女子 7・8位決定 A~D	少年女子 7・8位決定 A~D	少年女子 7・8位決定 A~D	少年女子 7・8位決定 A~D	少年女子 7・8位決定 A~D
少男子決勝 少女子決勝 10:45~12:30	少年男子 決勝 1~21	少年女子 決勝 1~24														
14:15														表彰式準備		
14:45														表彰式		

※ 進行状況により複数面展開する場合があります。

競技の見方

ソフトテニスの歴史

日本のソフトテニスは、明治17年（1884年）に当時わが国の体育界の先覚者であった坪井玄道氏らによって東京高等師範学校（現筑波大学）において行なわれたのが始まりとされており、明治の初期に日本に伝來した近代テニス（ローンテニス）を基に、日本独特のゴムボールを使用するテニス（軟式テニス）が考案され、その後、先駆者達の努力によって全国津々浦々まで普及されました。

軟式テニス大会としての最初の記録は、明治31年の東京高師と東京高商の対抗戦です。明治36年には慶應大学、37年には早稲田大学が加わり4校の対抗戦は大変な人気を博したそうです。

ソフトテニス競技は、平成27年に創始130周年、（公財）日本ソフトテニス連盟創立90周年を迎え、現在では大衆スポーツとして老若男女問わず幅広い年齢層が楽しめるスポーツとして普及・定着し、競技人口も約50万人を数えています。

（公財）日本ソフトテニス連盟は、ソフトテニスの発展のため国際普及活動にも力を注ぎ、韓国・中華台北と共に、東南アジアへの普及活動も積極的に行い、昭和31年からはアジア選手権大会を開催しています。後にこの国際普及活動には中国も参加することとなり、中国では昭和61年にソフトテニスを正式に大学の科目として採用しました。

またアジアだけにとどまらずアメリカ・ハワイ・ヨーロッパ・アフリカ・南米等世界各地でもソフトテニス普及活動を行っています。昭和49年には「国際軟式庭球連盟」結成を成し遂げ、昭和50年にはハワイにおいて「第1回軟式庭球世界選手権大会」が開催されました。

こうして、ソフトテニスは国際スポーツの仲間入りをすることになりました。

平成2年の「北京アジア競技大会」では公開競技として開催され、平成6年の「広島アジア競技大会」では正式競技となりました。この両アジア競技大会の間にソフトテニスの国際化は急速に進むことになります。この流れを受け更なる国際化を図るため、平成4年には100年以上続いた名称を「軟式庭球」から「ソフトテニス」と改め、平成5年からはシングルスの採用とサービス、ポジション、ファイナルゲームなどの変更を柱とした国際競技規則の制定が行われました。

その結果、平成11年に台北市で開催された「第11回世界選手権大会」では、過去最大の26ヶ国（地域）が参加するに至りました。指導者は「世界を目指さないスポーツは衰退する」を肝に銘じ、選手達の「夢」であるオリンピック参加を目標に国際普及の推進に日々努力しています。また、平成16年にも、競技規則を一部変更し「ソフトテニスハンドブック」で対応しています。

国際大会については、平成17年「東アジア大会（マカオ）」、平成18年「第15回アジア競技大会（カタール・ドーハ）」、平成19年「第13回世界選手権大会（韓国・安城市）」（40ヶ国・地域が参加）、平成20年には「第6回アジア選手権大会（韓国・聞慶市）」が開催されており、平成21年には念願であった、第1回国際ジュニア大会を四日市市で開催しました。

平成22年には「第16回アジア競技大会（中国・広州市）」、平成23年「第14回世界選手権大会（韓国・聞慶市）」、平成24年「第7回アジア選手権大会（中華台北・嘉義市）」、平成25年「第6回東アジア競技大会（中国・天津市）」、平成26年「第17回アジア競技大会（韓国・仁川市）」、平成27年「第15回世界選手権大会（インド・ニューデリー市）」、平成28年「第8回 アジア選手権大会（日本・千葉）」、平成29年は、「第25回 日韓中ジュニア交流競技大会（日本・笠間市）」、そして、平成30年は、「第18回 アジア競技大会がインドネシア・パレンバンで開催されました。

ソフトテニスの見どころ

ソフトテニスは、テニスと同じように、ネットをはさんで相手と向かい合い、ラケットを使ってボールを打ち合ってポイントを競います。自分のコートに飛んできたボールをノーバウンド（コートに一度もつかない状態）か、ワンバウンド（コートに一度だけついた状態）で返します。

ソフトテニスの試合にはダブルスとシングルスがあり、対戦方法としては個人戦と団体戦があります。国スポの場合は、2015年の和歌山国体からダブルス・シングルス・ダブルスの都道府県対抗の団体戦で行われ、「成年男子」・「成年女子」「少年男子」・「少年女子」の4種別で試合が行われます。

各都道府県の代表チームは、監督が作戦を練り相手チームの特徴などの情報を集め自軍との比較により、出場選手（オーダー）を決定します。ダブルス2ペアシングルス1プレーヤーのうち2勝しなければ負けとなるため、どのプレーヤーを1番（ダブルス）、2番（シングルス）、3番（ダブルス）に起用するかが作戦として大切になります。

ソフトテニスのダブルスの魅力は、ラリー（球の打ち合い）が続くことと、2人のプレーヤーのコンビネーションの妙技にあります。

ラリーの見どころとしては、ショートボール（速いボール）での打ち合いの迫力はもちろん、ロビング（山なりのゆるいボール）やショートボールを織り交ぜた多彩な攻撃や、スマッシュやボレーなどの華麗なネットプレーが挙げられます。

コンビネーションは、パートナー同士がお互いにカバーし合うだけでなく、相手陣形を崩すような配球をしたり、ポジション取りを変えたりすることによって、味方のプレーヤーがポイントしやすいようにプレーしたり、相手のミスを誘ったりすることもあります。このようなことは平素からお互いの気持ちが通じ合っているから可能であることであり、ダブルスならではの魅力です。

シングルスでは、対戦する両プレーヤーの敏捷性や巧緻性、パワーや状況判断力、プレッシャーへの抵抗力、集中力などが勝敗の鍵になり、団体戦の2番目に入りますので、チームの勝敗の分かれ目となります。

ダブルスの特色である2人で協力して1ポイントを獲得するラリーの応酬はもちろんですが、より攻撃的なフォーメーションである2人のプレーヤーがネットに付き、ボレーやスマッシュでポイントをしたり、ソフトテニス独特のカットサービスを行うこともあります。

シングルス選手の個々の技と能力にも注目すると、またひと味違った競技の楽しみ方ができるはずです。

都道府県別参加人員一覧表

番号	都道府県	人員監督会	種別			
			成年男子	成年女子	少年男子	少年女子
1	北海道	24	6	6	6	6
2	青森県	6		6		
3	岩手県	6		6		
4	宮城県	24	6	6	6	6
5	秋田県	18	6	6		6
6	山形県	12		6		6
7	福島県	12		6	6	
8	茨城県	12		6	6	
9	栃木県	12		6		6
10	群馬県	6		6		
11	埼玉県	12		6		6
12	千葉県	24	6	6	6	6
13	東京都	18	6	6		6
14	神奈川県	12		6	6	
15	山梨県	6		6		
16	新潟県	12		6		6
17	長野県	6		6		
18	富山县	12		6	6	
19	石川県	24	6	6	6	6
20	福井県	12	6	6		
21	静岡県	6		6		
22	愛知県	24	6	6	6	6
23	三重県	12		6		6
24	岐阜県	6		6		

番号	都道府県	人員監督会	種別			
			成年男子	成年女子	少年男子	少年女子
25	滋賀県	24	6	6	6	6
26	京都府	18	6	6		6
27	大阪府	18		6	6	6
28	兵庫県	12		6		6
29	奈良県	18	6	6	6	
30	和歌山県	12		6	6	
31	鳥取県	6		6		
32	島根県	6		6		
33	岡山県	18		6	6	6
34	広島県	18	6	6		6
35	山口県	18	6	6	6	
36	香川県	18	6	6	6	
37	徳島県	12		6		6
38	愛媛県	12		6		6
39	高知県	12		6	6	
40	福岡県	12		6		6
41	佐賀県	24	6	6	6	6
42	長崎県	12		6	6	
43	熊本県	12		6	6	
44	大分県	12		6		6
45	宮崎県	18	6	6		6
46	鹿児島県	12		6	6	
47	沖縄県	6		6		
計		648	96	282	126	144

監督・選手一覧表【成年男子】

都道府県名	監 督	氏名及び所属		
		選手1	選手3	選手5
		選手2	選手4	
北海道	新田 晃士 札幌学院クラブ	岡田 侑也 明治大学 五十嵐 和真 北翔大学	内海 大輔 CLOSSTY HOLDINGS 榎原 健太 CLOSSTY HOLDINGS	西 拓郎 中央大学
宮城県	石森 慶哉 KEIスポーツ株式会社	佐藤 駿丞 日本体育大学 早坂 隆之介 ウィナークラブ	根岸 霞紋 日本体育大学 中尾 彦斗 中央大学	浅見 竣一朗 早稲田大学
秋田県	黒澤 勝 秋田県信用保証協会	佐藤 大晴 秋田県民生協作 田村 翔 中電防災株式会社	松田 知大 東京経済大学 本間 勇太 青山学院大学	西宮 想心 立教大学
千葉県	大川戸 岳 新日本設計株式会社	高月 拓磨 ヨネックス株式会社 榎原 耕平 ヨネックス株式会社	溝端 亮二 敬愛学園高等学校(教) 米川 結翔 ヨネックス株式会社	昼間 悠佑 日本体育大学
東京都	小野寺 剛 学校法人 巢鴨学園(教)	山根 稔平 株式会社T4U 荒木 駿 ヨネックス株式会社	吉田 樹 大塚製薬株式会社 四位 光太 株式会社ベスト	大辻 伸彬 明治大学
石川県	高山 泰英 株式会社 オレンジかほく	米澤 要 YONEX 株式会社 端山 羅行 ソフトバンク 株式会社	竹田 凌 日本体育大学 松本 隼 東海大学	飯田 航仁 國學院大學
福井県	山口 一也 富士フロー精工株式会社	中本 圭哉 福井県立福井商業高等学校(職) 中村 悠峰 明治大学	品川 貴紀 福井県立福井南特別支援学校(教) 早川 和宏 福井県立福井南特別支援学校(職)	阿部 智貴 福井県立金津高等学校(職)
愛知県	鶴見 和生 東邦ガス(株)	安藤 圭祐 東邦ガス(株) 大友 駿 東邦ガス(株)	坂口 壮亮 (税) 広中タックスサポート 足利 鳩太 東邦ガス(株)	坂口 生磨 明治大学
滋賀県	寺島 敬博 甲賀市立甲南第一小学校(教)	加藤 裕喜 東近江市役所 齋藤 大樹 滋賀ダイハツ販売株式会社	山内 風我 立命館大学 玉置 毅斗 天理大学	村井 晋之介 立命館大学
京都府	岩本 健佐有 京都市役所	星野 雄慈 ワタキューセイモア株式会社 阪本 峻 ワタキューセイモア株式会社	川崎 浩希 ワタキューセイモア株式会社 池口 季将 ワタキューセイモア株式会社	金山 勇波 ワタキューセイモア株式会社
奈良県	松原 豊広 公益財団法人奈良県学校給食会	橋場 栄一郎 法政大学 菊山 太陽 法政大学	永江 孝二郎 福岡大学 安達 宣 早稲田大学	小島 大輝 立命館大学
広島県	村上 雄人 NTT西日本	長江 光一 NTT西日本 上松 俊貴 NTT西日本	本倉 健太郎 NTT西日本 広岡 宙 NTT西日本	矢野 鳩人 NTT西日本

監督・選手一覧表【成年男子】

都道府県名	監 督	氏名及び所属		
		選手 1	選手 3	選手 5
		選手 2	選手 4	
山口県	岩本 将志 東ソー株式会社	鬼頭 貴之 山口県立宇部総合支援学校 (教) 山下 祥吾 東ソー株式会社	松田 蒼生 東ソー株式会社 戸畠 勝喜 MUアークライン株式会社	兼森 富久斗 東ソー物流株式会社
香川県	今村 義美 高松市立香川第一中学校(教)	内田 陽斗 法政大学 野本 凌生 法政大学	岩田 晃平 日本体育大学 小山 寛晴 明治大学	豊田 祐汎 立教大学
佐賀県	山崎 智彦 有限会社スポーツアイランド	上岡 俊介 Team SAGA SSP 丸山 海斗 Team SAGA SSP	中尾 寛之 十八親和銀行 小副川 忠希 有限会社スポーツアイランド	藤井 智暉 日本体育大学
宮崎県	中須 遼平 県立日南高等学校(教)	鹿島 鉄平 都城市立山之口中学校 (教) 井口 雄介 スマッシュイグチ	森田 晴紀 都城市立五十市中学校 (教) 川崎 康平 日本体育大学	森 良輔 日本体育大学

監督・選手一覧表【成年女子】

都道府県名	監 督	氏名及び所属		
		選手1	選手3	選手5
		選手2	選手4	
北海道	三浦 充晴 日本たばこ産業(株)北海道支店	尾崎 潤里奈アレクサン德拉 日本体育大学 八島 知優 四国大学	椎木 温日 関西外国語大学 吉本 裕香 関西大学	大和 かのん 北翔大学
青森県	天間 雅則 有限会社乙供塗装店	天間 美嘉 日本体育大学 細田 美帆 日本体育大学	向山 せら 日本体育大学 千葉 遥菜 東京経済大学	新山 千春 東海大学
岩手県	宍戸 春佳 奥州市役所	佐藤 真優 東北学院大学 高橋 心菜 東京経済大学	佐藤 光 東京経済大学 畠山 真碧 岩手リハビリテーション学院	前角地 彩菜 ヨネックス新潟
宮城県	吉田 美穂 仙台白百合学園小学校(教)	大和 美月 早稲田大学 濱口 芽花 日本体育大学	中島 はな 東京女子体育大学 及川 咲空 東京女子体育大学	坂本 朱羽 どんぐり財団
秋田県	齊藤 祐佳 秋田市役所	菊地 捨央 能代市役所 山谷 真琴 能代市役所	岩澤 尚 学校法人野又学園函館自動車学校 遠藤 夢知 北翔大学	須原 瑠愛 日清鋼業株式会社
山形県	工藤 正広 公益財団法人山形市スポーツ協会	半田 穂乃花 早稲田大学 福島 希 青山学院大学	藤守 初香 東北学院大学 樋渡 双葉 東北学院大学	若月 希 公益財団法人山形市スポーツ協会
福島県	大槻 三喜 住友ゴム工業株式会社白河工場	小川 木乃花 住友ゴム工業株式会社白河工場 清水 麻美 住友ゴム工業株式会社白河工場	高濱 美厘 住友ゴム工業株式会社白河工場 近藤 明日咲 住友ゴム工業株式会社白河工場	小松崎 茉代 住友ゴム工業株式会社白河工場
茨城県	大滝 暢彦 水戸女子高等学校(教)	西山 なつみ 明治大学 櫻井 可南子 茨城県立潮来高等学校(教)	大門 菜奈 四国大学 石川 鈴華 東海大学	遠藤 理衣 東洋大学
栃木県	大塚 喜直 矢板中央高等学校(教)	日笠 愛美 立教大学 海老根 香澄 ワタキューセイモア(株)	伊東 奈名美 東京女子体育大学 菊次 萌花 白鷗大学	桑木 愛花 東京経済大学
群馬県	三浦 洋美 永井運輸(株)	左近 知美 日本体育大学 佐藤 心美 早稲田大学	渡邊 妃菜乃 日本体育大学 花見 楓香 ヨネックス新潟(株)	青木 裕希 國學院大學
埼玉県	中村 進 慶應義塾(職)	赤川 友里奈 ヨネックス(株) 杉本 希 ヨネックス(株)	上野 美穂 川口市役所 久保田 茜 アキム(株)	吉野 南美 アキム(株)
千葉県	吉村 寛子 大和ハウス工業株式会社	片野 理音 ヨネックス株式会社 小松 芹奈 ヨネックス株式会社	小林 愛美 ヨネックス株式会社 吉田 澄奈 ヨネックス株式会社	相原 愛 國學院大學

監督・選手一覧表【成年女子】

都道府県名	監 督	氏名及び所属		
		選手1	選手3	選手5
		選手2	選手4	
東京都	田中 弘 ナガセケンコー株式会社	久保 晴華 ナガセケンコー株式会社 上野 小町 ナガセケンコー株式会社	浪岡 菜々美 ナガセケンコー株式会社 五十嵐 美結 日本体育大学	小作 吏音 青山学院大学
神奈川県	石井 匠 石井ソフトテニススクール	後藤 理子 横浜ひなたやま支援学校(教) 後藤 和香奈 日本体育大学	吉野 真未 (株)ウェルトレード 五味 陽日 國學院大學	谷口 菜絵香 國學院大學
山梨県	八巻 一也 甲州市役所	雨宮 夢奈 健康科学大学 雀田 來愛 株式会社ルーセント	田王 羽菜 順天堂大学 千野 愛梨 青梅信用金庫	箭本 茉央 (有)六曜社コーナーポケット
新潟県	新倉 裕二 ヨネックス(株)	大野 愛香 ヨネックス(株) 田辺 なつき ヨネックス(株)	本間 友里那 神戸松蔭大学 源川 耀子 ヨネックス(株)	安藤 愛莉 神戸松蔭大学
長野県	牧之瀬 和志 長野ITサポート(株)	黒崎 菖子 神戸松蔭大学 村田 美波 (医) 村のふくろう小見山医院	春原 百々羽 (株)カネト 義家 來実 東京経済大学	富山 鈴香 東京経済大学
富山県	馬場 菜生 ウェーブ富山	桑名 優依 ウェーブ富山 青江 美南 関西外国语大学	金瀬 萌 ウェーブ富山 湯浅 舞奈 同志社女子大学	高井 沙彩 ウェーブ富山
石川県	高山 知之 石川県立白山麓少年自然の家	中村 璃緒 金沢市立中央小学校 芳斎分校(教) 中田 心春 金沢大学	竹口 陽菜 金沢医科大学 達 光来 小松市立松陽中学校(教)	大村 友里 関西大学
福井県	柿下 雅俊 株式会社福井銀行	橋谷 江里子 鯖江市役所 中田 早紀 福井県立ろう学校(教)	白崎 ひかる ヨネックス株式会社 中村 楓芽 日本体育大学	柿下 肇凜 同志社女子大学
静岡県	枝村 賢美 浜松市役所	中山 由侑 富士宮市立大富士小学校(教) 溝上 明璃 (株)スクロール	外山 煌羅 浜松光電(株) 藤原 友美佳 県立富士特別支援学校(教)	渡邊 里海 (公社)有隣厚生会富士病院
愛知県	加藤 丈博 (株)アドマテックス	那須 曜帆 (株)アドマテックス 坂本 茉梨乃 (株)アドマテックス	浅見 今日子 (株)アドマテックス 庄司 琴里 (株)アドマテックス	原 千晴 (株)アドマテックス
三重県	川淵 泰直 パナソニック エレクトリックワークス電材三重株式会社	藤城 みちる ナガセケンコー株式会社 大友 紅実 ヨネックス株式会社	原田 美結 日本体育大学 松岡 琴美 日本体育大学	大槻 玲雨 明治大学
岐阜県	木本 和志 太平洋工業株式会社	浅倉 衣里 太平洋工業株式会社 川口 真歩 太平洋工業株式会社	薮内 祥子 太平洋工業株式会社 大津 櫻 太平洋工業株式会社	藤井 七海 太平洋工業株式会社

監督・選手一覧表【成年女子】

都道府県名	監 督	氏名及び所属		
		選手1	選手3	選手5
		選手2	選手4	
滋賀県	二矢 晃徳 滋賀県立長浜養護学校(教)	寺澤 佑珠妃 國學院大學 北川 アンナ璃咲 明治大学	柴田 花 立命館大学 奥山 充結 関西学院大学	柴田 凜 関西大学
京都府	百町 善明 ワタキューセイモア株式会社	福田 麗優 ワタキューセイモア株式会社 原口 美咲 ワタキューセイモア株式会社	長谷川 豪華 ワタキューセイモア株式会社 矢野 亜日華 ワタキューセイモア株式会社	村上 亜優 ワタキューセイモア株式会社
大阪府	成田 扶美代 ミズノ株式会社	松村 美空 北広島町役場豊平地域づくりセンター 青松 淑佳 明治大学	竹本 萌花 日本体育大学 永橋 舞雪 関西大学	富永 珠羽 関西学院大学
兵庫県	岡部 勝式 東芝姫路	根岸 楓英奈 東芝姫路 佐藤 日香莉 東芝姫路	宮原 あかり 東芝姫路 前田 梨緒 明治大学	中谷 さくら 明治大学
奈良県	丸野 令貴 テニスショップリブ	木原 那菜 ナガセケンコー株式会社 木原 恵菜 ナガセケンコー株式会社	岩元 愛美 神戸松蔭大学 岩元 望美 神戸松蔭大学	小藪 心愛 天理大学
和歌山県	塩寄 弘騎 和歌山県庁	浦山 韶 関西大学 古田 麻友 株式会社ウェストウイング	上田 柚香 きのくに信用金庫 生井沢 日向子 日本体育大学	江口 咲礼紗 関西大学
鳥取県	中川 智志 鳥取県立境港総合技術高等学校(教)	吉川 理梨 トヨタ自動車株式会社 清水 千里 トヨタ自動車株式会社	仲倉 理緒 立教大学 内田 真愛 日本体育大学	松原 一葉 四国大学
島根県	松崎 ゆかり 奥出雲町立三成小学校(教)	中島 茉衣子 山陰中央テレビジョン放送(株) 長谷田 明子 坂之上建設(株)	山下 愛莉 (株)ベスト 野津 乙笑 高知大学	行田 夏菜子 広島修道大学
岡山県	後藤 浩一 (株)アステック工業	西村 心那 神戸親和大学 畠中 望来 アザレア千代田	山本 萌衣紗 ノートルダム清心女子大学 仲村 早百合 四国大学	守谷 歩果 神戸親和大学
広島県	中堀 成生 NTTビジネスソリューションズ(株)広島ビジネス営業部	濱島 怜奈 國學院大學 箱崎 愁里 ナガセケンコー株式会社	西村 優那 神戸親和大学 島田 理沙 日本基準寝具株式会社	横山 友香 日本基準寝具株式会社
山口県	林 快昌 宇部物流サービス株式会社	山田 葉七 山口県立岩国商業高等学校(教) 川口 みゆき 一般財団法人どんぐり財団	高橋 瑠子 早稲田大学 栗野 杏菜 四国大学	齊藤 ひなの 下松市役所
香川県	伊加 大亮 Team IGA	高橋 ひかる 日本体育大学 藤田 莉奈 四国大学	矢野 美子 壱庭会 片山 麻衣 関西外国语大学	福原 莓花 中京大学

監督・選手一覧表【成年女子】

都道府県名	監 督	氏名及び所属		
		選手1	選手3	選手5
		選手2	選手4	
徳島県	土井内 陽介 四国大学(職)	久留 紅 四国大学 逸見 真子 四国大学	谷 明日里 四国大学 長谷 歩奈 四国大学	高木 己想 四国大学
愛媛県	西本 隆史 株式会社フジセキュリティ	濱田 凜花 神戸松蔭大学 濱田 遥花 日本体育大学	正岡 由光 福山平成大学 河野 桐 松山大学	太田 薫 関西大学
高知県	関 誠一 ニッポン高度紙工業株式会社	明神 未来 高知県庁 影山 星七 高知工科大学	土井 果音 中京大学 高橋 美結 天理大学	西岡 采未 日本食研(株)高知支店
福岡県	原口 増美 福岡県ソフトテニス連盟	山下 永遠 日本体育大学 岩田 愛美 日本体育大学	原野 湊 福岡大学 竹田 葵 福岡大学	岡田 采華 四国大学
佐賀県	山下 ひかる 嬉野高等学校(教)	立花 さくら Team SAGA SSP 鈴木 理奈 Team SAGA SSP	喜多 莉子 済昭園 中島 那菜 天理大学	池田 朝花 日本体育大学
長崎県	野口 達也 長崎県ソフトテニス連盟	高崎 秋穂 長崎県立島原商業高等学校(教) 吉次 莉沙 熊本学園大学	坂口 美沙姫 天理大学 鳥巣 穂乃香 四国大学	竹添 すみれ 株式会社伸工舎
熊本県	谷脇 卓 尚絅高等学校(教)	岩下 美久 九州学院中学高等学校(教) 岩崎 琉海波 株式会社リアイアブル	黒木 夏穂 株式会社ヒライ 上田 麗湖 株式会社マイナビ	田中 なつね 熊本学園大学
大分県	杉野 浩司 日本製鉄㈱九州製鉄所大分地区	花田 威子 日本製鉄㈱九州製鉄所大分地区 岡部 百花 日本製鉄㈱九州製鉄所大分地区	門松 虹 日本製鉄㈱九州製鉄所大分地区 中嶋 心暖 神戸親和大学	岩倉 彩佳 どんぐり北広島ソフトテニスクラブ
宮崎県	渡邊 彦継 県立高城高等学校(教)	松尾 礼奈 どんぐり北広島 清水 美海 幼保連携型認定こども園七つの星幼稚舎	山下 鈴加 県立日南くろしお支援学校(教) 西田 海晴 株式会社エビス商事	児玉 美奈 株式会社エビス商事
鹿児島県	橋口 ゆう子 鹿児島市役所	末吉 りえ 株式会社大隅機械サービス 山本 花菜 (株)モダンデザイン	吉木 理彩 日本体育大学 東條 舞 あいいろ歯科医院	加 亜実佳 指宿市立指宿商業高等学校(職)
沖縄県	外間 敬子 外間建築設計事務所	高嶺 心萌 國學院大学 上里 しゅり 東京女子体育大学	玉城 みりあ 名桜大学 福地 美楽惟 福山平成大学	濱川 詩友 チームサニーブリーズ

監督・選手一覧表【少年男子】

都道府県名	監 督	氏名及び所属		
		選手 1	選手 3	選手 5
		選手 2	選手 4	
北海道	播磨 良信 <small>酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校(教)</small>	宮崎 航和 <small>酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校</small> 高野 郁海 <small>酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校</small>	竹市 泰士 <small>酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校</small> 村上 楓 <small>酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校</small>	岩城 啓太 <small>酪農学園大学付属とわの森三愛高等学校</small>
宮城県	菊地 貴樹 <small>塩釜高等学校(教)</small>	水木 洋 <small>東北高等学校</small> 松田 拳弥 <small>東北高等学校</small>	白井 風 <small>東北高等学校</small> 千田 夏輝 <small>東北高等学校</small>	根津 圭威士 <small>東北高等学校</small>
福島県	松崎 法夫 <small>福島県立田村高等学校(教)</small>	草野 春真 <small>福島県立田村高等学校</small> 宗像 鶩 <small>福島県立田村高等学校</small>	高島 蒼太 <small>学校法人石川高等学校</small> 渡邊 智隼 <small>学校法人石川高等学校</small>	富塚 遥翔 <small>学校法人石川高等学校</small>
茨城県	塙原 隆 <small>茨城県立石岡第一高等学校(教)</small>	善福 留生 <small>霞ヶ浦高等学校</small> 白川 隼平 <small>霞ヶ浦高等学校</small>	高嶋 雅弥 <small>霞ヶ浦高等学校</small> 吉井 翼 <small>霞ヶ浦高等学校</small>	堀 ひかる <small>霞ヶ浦高等学校</small>
千葉県	東 慎一郎 <small>木更津総合高等学校(教)</small>	竹之内 琉汰 <small>木更津総合高等学校</small> 道祖土 混樹 <small>木更津総合高等学校</small>	中原 一翔 <small>木更津総合高等学校</small> 藤原 伸樹 <small>木更津総合高等学校</small>	手塚 康介 <small>木更津総合高等学校</small>
神奈川県	松口 良也 <small>横浜創英高等学校(教)</small>	原田 興勇 <small>東海大学付属相模高等学校</small> 神藏 悠月 <small>東海大学付属相模高等学校</small>	赤阪 英昭 <small>慶應義塾高等学校</small> 高山 輝也 <small>立花学園高等学校</small>	中山 榮太 <small>法政大学第二高等学校</small>
富山県	伊野 拓実 <small>入善高等学校(教)</small>	角崎 豪哉 <small>高岡商業高等学校</small> 島 健斗 <small>高岡商業高等学校</small>	高瀬 勇貴 <small>不二越工業高等学校</small> 中谷 来稀 <small>高岡商業高等学校</small>	前川 悠成 <small>高岡商業高等学校</small>
石川県	平 武 <small>石川県立能登高等学校(教)</small>	高澤 泉 <small>石川県立能登高等学校</small> 阿部 執 <small>石川県立能登高等学校</small>	藤岡 蓮 <small>石川県立能登高等学校</small> 一ノ瀬 恭平 <small>石川県立能登高等学校</small>	久田 陸人 <small>金沢学院大学附属高等学校</small>
愛知県	牧 知秀 <small>岡崎城西高等学校(教)</small>	塙本 光琉 <small>岡崎城西高等学校</small> 鳴海 志優 <small>岡崎城西高等学校</small>	長濱 瑠飛 <small>岡崎城西高等学校</small> 稻葉 大幸 <small>岡崎城西高等学校</small>	石川 智弘 <small>岡崎城西高等学校</small>
滋賀県	峯松 健太朗 <small>立命館守山高等学校(教)</small>	保海 祥真 <small>立命館守山高等学校</small> 北村 温暉 <small>立命館守山高等学校</small>	竹田 央 <small>立命館守山高等学校</small> 石田 玲音 <small>綾羽高等学校</small>	玉木 奏真 <small>綾羽高等学校</small>
大阪府	灰田 直弘 <small>東海大学付属大阪仰星高等学校(教)</small>	濱中 純誠 <small>上宮高等学校</small> 福井 竣也 <small>上宮高等学校</small>	須原 蒼 <small>上宮高等学校</small> 赤川 奏太 <small>上宮高等学校</small>	福田 喜大 <small>上宮高等学校</small>
奈良県	越智 敏晃 <small>大和高田市立高田商業高等学校(教)</small>	植田 璃音 <small>大和高田市立高田商業高等学校</small> 荻谷 侑磨 <small>大和高田市立高田商業高等学校</small>	飯降 優 <small>大和高田市立高田商業高等学校</small> 前田 蒼生 <small>大和高田市立高田商業高等学校</small>	林田 遼太郎 <small>大和高田市立高田商業高等学校</small>

監督・選手一覧表【少年男子】

都道府県名	監 督	氏名及び所属		
		選手 1	選手 3	選手 5
		選手 2	選手 4	
和歌山県	渡海 聰 和歌山県立和歌山北高等学校(教)	下田 隼輝 和歌山県立和歌山北高等学校 山下 來空 和歌山県立和歌山北高等学校	野田 弦輝 和歌山県立和歌山北高等学校 内海 遼太 和歌山県立和歌山北高等学校	秋田 駿登 和歌山県立和歌山北高等学校
岡山県	今田 瑞基 岡山理科大学附属高等学校	石灘 苍瑛 岡山理科大学附属高等学校 青木 晴弥 岡山理科大学附属高等学校	堺 瑠音 岡山理科大学附属高等学校 佐藤 苍真 岡山理科大学附属高等学校	松永 凌 岡山南高等学校
山口県	光廣 大樹 山口県立南陽工業高等学校(教)	大竹 永真 高水高等学校 坂田 真咲斗 山口県立南陽工業高等学校	松本 一真 山口県立南陽工業高等学校 山本 大輔 山口県立南陽工業高等学校	西村 悠真 山口県立南陽工業高等学校
香川県	森 博朗 尽誠学園高等学校(教)	笹川 慶瑛 尽誠学園高等学校 池部 綾 尽誠学園高等学校	丸田 貴士 尽誠学園高等学校 山本 一輝 尽誠学園高等学校	木原 祐翔 尽誠学園高等学校
高知県	宮地 正義 明徳義塾中学高等学校(教)	三田 勇人 明徳義塾高等学校 西山 友晴 明徳義塾高等学校	木本 琉偉 明徳義塾高等学校 福見 優心 明徳義塾高等学校	林 寿李稀 明徳義塾高等学校
佐賀県	大島 樹 嬉野高等学校(教)	山口 栄 嬉野高等学校 松尾 航希 嬉野高等学校	川浪 孝太郎 嬉野高等学校 仁戸田 遥斗 嬉野高等学校	西 駿介 佐賀工業高等学校
長崎県	池本 孝一 長崎南山高等学校(教)	白濱 凪騎 長崎南山高等学校 下田 詠太 長崎南山高等学校	稻田 大翔 長崎南山高等学校 深浦 琉可 長崎南山高等学校	坪井 結 長崎南山高等学校
熊本県	今泉 克 熊本県立小川工業高等学校(教)	外田 悠斗 文徳高等学校 平野 苍空 文徳高等学校	大川 竜明 熊本県立熊本工業高等学校 横田 祥 熊本県立熊本工業高等学校	下森 吏 文徳高等学校
鹿児島県	森 圭也 鹿児島市立鹿児島商業高等学校(教)	河野 晃大 鹿児島実業高等学校 川内 聰一郎 鹿児島市立鹿児島商業高等学校	美坂 瑛人 鹿児島市立鹿児島商業高等学校 深見 露雅 鹿児島市立鹿児島商業高等学校	萩原 墳ノ祐 鹿児島市立鹿児島商業高等学校

監督・選手一覧表【少年女子】

都道府県名	監 督	氏名及び所属		
		選手 1	選手 3	選手 5
		選手 2	選手 4	
北海道	渕田 彩香 <small>酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校(教)</small>	渡辺 玲花 札幌龍谷学園高等学校 堀内 純香 札幌龍谷学園高等学校	関 心那 <small>酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校</small> 亀田 凜 <small>酪農学園大学付属とわの森三愛高等学校</small>	西畠 咲愛 札幌大谷高等学校
宮城県	仙台 茉莉花 利府高等学校(教)	天間 麗奈 東北高等学校 佐藤 紗空 東北高等学校	柏 春花 東北高等学校 村上 芹 東北高等学校	中山 萌 東北高等学校
秋田県	佐藤 純也 秋田令和高等学校(教)	佐藤 美緒 秋田令和高等学校 丸岡 希来 秋田令和高等学校	戸澤 碧衣 秋田県立秋田北高等学校 佐藤 優愛 秋田県立秋田西高等学校	安保 美桜 秋田市立土崎中学校
山形県	二郷 公平 山形市立第六中学校(教)	山田 蒼子 学校法人羽黒学園羽黒高等学校 栗田 みらい 学校法人羽黒学園羽黒高等学校	今井 寧々 学校法人羽黒学園羽黒高等学校 対馬 優 学校法人羽黒学園羽黒高等学校	戸川 瑠花 学校法人羽黒学園羽黒高等学校
栃木県	風間 頌太 白鷗大学足利高等学校(教)	秋田 紅美子 宇都宮短期大学附属高等学校 廣谷 流凜 宇都宮短期大学附属高等学校	螺良 寧々 白鷗大学足利高等学校 荒川 みのり 宇都宮文星女子高等学校	阿久津 美優 白鷗大学足利高等学校
埼玉県	中村 侑貴 星野高等学校(教)	高杉 萌那 星野高等学校 森 菜々花 星野高等学校	西條 友依子 埼玉平成高等学校 上野 夏葵 埼玉平成高等学校	原田 絵麻 埼玉平成高等学校
千葉県	土屋 貴亮 成田高等学校(教)	平野 帆乃花 昭和学院高等学校 篠 未奈美 昭和学院高等学校	平野 夏菜 木更津総合高等学校 波多江 光咲 成田高等学校	宮本 果歩 成田高等学校
東京都	武元 望美 文化学園大学杉並高等学校(教)	佐久間 結愛 文化学園大学杉並高等学校 柳川 凜 文化学園大学杉並高等学校	富永 紗妃 文化学園大学杉並高等学校 仙澤 叶夢 文化学園大学杉並高等学校	松村 佳紀 文化学園大学杉並高等学校
新潟県	津野 誠司 北越高等学校(教)	吉澤 茉子 北越高等学校 戸松 煌理 北越高等学校	石田 にこ 新潟市立内野中学校 佐藤 愛桜 新潟市立内野中学校	小池 涼花 胎内市立中条中学校
石川県	米澤 真琴 石川県立能登高等学校(教)	岩見 莉歩 石川県立能登高等学校 宮下 日香莉 石川県立能登高等学校	服部 亜子 金沢学院大学附属高等学校 森川 愛瑠 石川県立能登高等学校	小酒 虹海 金沢学院大学附属高等学校
愛知県	伊藤 広剛 岡崎城西高等学校(教)	笠井 唯花 豊田大谷高等学校 井口 美月 岡崎城西高等学校	鎌倉 有希 岡崎城西高等学校 國枝 咲花 岡崎城西高等学校	服部 麻衣 豊橋中央高等学校
三重県	村田 真紀乃 <small>学校法人三重高等学校 三重高等学校(教)</small>	浦野 はづき <small>学校法人三重高等学校 三重高等学校</small> 小野 愛莉 <small>学校法人三重高等学校 三重高等学校</small>	中島 ひめ <small>学校法人三重高等学校 三重高等学校</small> 大野 柚芽 <small>学校法人三重高等学校 三重高等学校</small>	起田 亜旺 <small>学校法人三重高等学校 三重高等学校</small>

監督・選手一覧表【少年女子】

都道府県名	監 督	氏名及び所属		
		選手 1	選手 3	選手 5
		選手 2	選手 4	
滋賀県	吉田 恵子 滋賀県立長浜養護学校(教)	藤井 海優 滋賀県立甲西高等学校 久留島 加奈 滋賀県立甲西高等学校	下村 莉子 滋賀県立甲西高等学校 山田 凜子 滋賀県立甲西高等学校	増田 凜 滋賀県立甲西高等学校
京都府	南本 昭紀 京都光華高等学校(教)	西村 ひよ 京都光華高等学校 原 綾那 京都光華高等学校	松井 鳩花 京都光華高等学校 伊藤 亜沙華 京都光華高等学校	太田 倫 京都光華高等学校
大阪府	仲座 英二 四天王寺高等学校(教)	野間 結菜 昇陽高等学校 竹田 羽花 昇陽高等学校	房野 紗千 四天王寺高等学校 市川 こいと 四天王寺高等学校	池田 つばき 昇陽高等学校
兵庫県	山田 あゆみ 須磨学園高等学校(教)	中谷 ももこ 須磨学園高等学校 野中 萌花 須磨学園高等学校	竹平 碧純 須磨学園高等学校 三村 優陽 須磨学園高等学校	竹村 瑠稀愛 須磨学園高等学校
岡山県	篠埜 未住帆 就実高等学校(教)	近坂 優衣 就実高等学校 足利 茉奈 就実高等学校	阿部 寧々 山陽学園高等学校 馬島 汐理 山陽学園高等学校	内藤 愛莉 就実高等学校
広島県	渡部 剛史 広島翔洋高等学校(教)	前川 愛生 広島翔洋高等学校 塚本 七海 広島翔洋高等学校	伊藤 美咲華 広島翔洋高等学校 村上 鈴 広島翔洋高等学校	松井 文音 広島翔洋高等学校
徳島県	大森 久義 脇町高等学校(教)	長瀬 千咲 脇町高等学校 島田 藍 脇町高等学校	浅井 優里 脇町高等学校 吉岡 梨緒 脇町高等学校	遠野 遥 脇町高等学校
愛媛県	高橋 勇喜 聖カタリナ学園高等学校(教)	武下 和奏 済美高等学校 矢野 朱莉 愛媛県立今治北高等学校	山崎 史帆里 済美高等学校 高橋 妃菜 済美高等学校	伊東 ひなた 愛媛県立今治北高等学校
福岡県	原口 俊之 中村学園女子高等学校(教)	長谷部 百咲 中村学園女子高等学校 長島 朱伽 中村学園女子高等学校	田代 柚花 中村学園女子高等学校 深澤 里菜 中村学園女子高等学校	古野 あおい 中村学園女子高等学校
佐賀県	岡本 洋平 佐賀大学教育学部附属中学校(教)	石井 胡桃 嬉野高等学校 花木 夏々璃 佐賀清和高等学校	松本 唯郁 嬉野高等学校 阿辺 未羽 嬉野高等学校	杉原 澄 嬉野高等学校
大分県	高橋 和基 大分県立大分商業高等学校(教)	松尾 咲和 大分県立大分商業高等学校 大海 香桜 大分県立大分商業高等学校	小林 司 明豊高等学校 片山 伊織 明豊高等学校	諏佐 杏 明豊高等学校
宮崎県	川崎 智成 県立宮崎商業高等学校(教)	鈴木 心暖 日南学園高等学校 大山 莉里華 日南学園高等学校	瀬戸口 植 県立宮崎商業高等学校 結城 和華 県立宮崎商業高等学校	山口 優菜 県立宮崎商業高等学校

総合成績決定方法

男女総合成績(天皇杯)、女子総合成績(皇后杯)決定方法

男女総合成績、女子総合成績は、競技得点と参加得点の合計とし、その得点の多い都道府県順に第1位から第8位までを決定する。ただし、同点の場合は、その順位を共有し、次の順位を欠位とする。

(1) 競技得点

天皇杯対象種別	皇后杯対象種別	競 技 得 点
成年男子	成年女子	各種別とも1位40点、2位35点、3位30点、4位25点、5位20点、6位15点、7位10点、8位5点の競技得点を与える。
成年女子	成年女子	ただし、天候その他の事情により順位戦及び決定戦を行わず同順位の場合は、その順位を共有し、次の順位を欠位とする。
少年男子	少年女子	なお、得点は次の順位のものを加え、当該都道府県で等分する。
少年女子	少年女子	

(2) 参加得点

大会（ブロック大会を含む）に参加した都道府県には、参加種別数にかかわらず1都道府県に10点を与える。ただし、ブロック大会で本大会の出場権を獲得しながら、本大会に参加しなかった場合は与えない。

男女総合成績(天皇杯得点)・女子総合成績(皇后杯得点)一覧表

区分 都道府県名	男女総合成績(天皇杯得点)								女子総合成績(皇后杯得点)									
	少年男子		少年女子		成年男子		成年女子		競技得点合計	参加得点	合計	順位	少年女子	成年女子	競技得点合計	参加得点	合計	順位
	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点										
1 北海道																		
2 青森																		
3 岩手																		
4 宮城																		
5 秋田																		
6 山形																		
7 福島																		
8 茨城																		
9 栃木																		
10 群馬																		
11 埼玉																		
12 千葉																		
13 東京																		
14 神奈川																		
15 山梨																		
16 新潟																		
17 長野																		
18 富山																		
19 石川																		
20 福井																		
21 静岡																		
22 愛知																		
23 三重																		
24 岐阜																		
25 滋賀																		
26 京都																		
27 大阪																		
28 兵庫																		
29 奈良																		
30 和歌山																		
31 鳥取																		
32 島根																		
33 岡山																		
34 広島																		
35 山口																		
36 香川																		
37 徳島																		
38 愛媛																		
39 高知																		
40 福岡																		
41 佐賀																		
42 長崎																		
43 熊本																		
44 大分																		
45 宮崎																		
46 鹿児島																		
47 沖縄																		

過去の成績一覧表

回	1	2	3	4	5	6	7	8	9
年	昭和21年度	昭和22年	昭和23年	昭和24年	昭和25年	昭和26年	昭和27年	昭和28年	昭和29年
開催県	京都府	石川県	福岡県	東京都	愛知県	広島県	福岡県	愛媛県	北海道
会場	京都市 西京極競技場	七尾市 小丸山公園 七尾中学	福岡市 東公園 コート	東京都 後楽園 コート	名古屋 久屋 コート	吳市営 稲荷町 コート	会津若松 市営 コート	松山市 堀之内県営 コート	旭川 市営 コート
男女総合			岡山県	東京都	広島県	岡山県	三重県	三重県	東京都
女子総合			三重県	香川県	福岡県	長野県	三重県 広島県	三重県	東京都 長野県
高校男子	優勝	木村原 (倉敷商中)	三重県	岡山県	和歌山県	静岡県	岡山県	三重県	広島県
	2位	内藤石原 (岡山商中)	徳島県	和歌山県	栃木県	岡山県	東京都	神奈川県	神奈川県
	3位	増田江坂 (高松中)	大分県	兵庫県	三重県	兵庫県	兵庫県	千葉県	静岡県
	3位	立川児玉 (大分中)	長野県	愛知県	神奈川県	広島県	広島県	長野県	山口県
高校女子	優勝	森芥川 (茨木高女)	東京都	三重県	三重県	長野県	広島県	三重県	千葉県
	2位	中尾増田 (茨木高女)	大阪府	東京都	埼玉県	広島県	岡山県	埼玉県	愛知県 長野県
	3位	(学)福島新保 (桜町高女)	愛知県	岡山県	愛知県	千葉県	兵庫県	愛知県	広島県 栃木県
	3位	小山道原 (北海道高女)	岡山県	長野県	東京都	大阪府	神奈川県	栃木県	鹿児島県 埼玉県
教員大学・高専	優勝		日本大学	日本大学 決勝降雨中止	日本大学				
	2位		明治大学		早稲田大学	関西学院大学			
	3位		早稲田大学	同志社大学		関西大学			
	3位		明治学院大学	関西学院大学		中央大学			
一般女子	優勝	千葉大門 (福島県)	三重県	三重県	東京都	福島県		三重県	三重県
	2位	免山村 (大阪府)	岡山県	福島県	福島県	東京都		東京都	愛媛県 東京都
	3位	山崎塚原 (大阪府)	神奈川県	東京都	3岡山県	神奈川県		福島県	長野県 岡山県
	3位	須々木三垣 (岡山県)	福島県	兵庫県	4神奈川県	愛知県		長野県	東京都 愛媛県
一般男子	優勝	磯辺石川 (大阪府)	岡山県	岡山県	東京都	岡山県		岡山県	東京都 東京都
	2位	山木木田 (東京都)	東京都	東京都	岡山県	東京都		東京都	岡山県 岐阜県
	3位	浅野山名 (愛知県)	群馬県	群馬県	3茨城県	静岡県		愛知県	岐阜県 兵庫県
	3位	小川志賀 (福島県)	山梨県	山梨県	4兵庫県	島根県		山梨県	愛知県 茨城県
壮年二般男子二部	優勝	間賀多久 (大阪府)	京都府	京都府	東京都	大阪府		北海道	東京都 北海道
	2位	伊藤高橋 (東京都)	大阪府	大阪府	京都府	北海道		大阪府	北海道 大阪府
	3位	宮崎富尾 (三重県)	岡山県	岡山県	3千葉県	東京都		愛知県	広島県 広島県
	3位	森鳴川 (愛知県)	愛知県	愛知県	4山梨県	山梨県		愛媛県	福島県 東京都
備考	第1回大会は日本選手権を兼ねて行われた。	①第2回大会より都道府県対抗になった。 ②第2回・第3回・第5回大会は大学・高専対抗が行われた。							

回	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
年	昭和30年	昭和31年	昭和32年	昭和33年	昭和34年	昭和35年	昭和36年	昭和37年	昭和38年	昭和39年
開催県	神奈川県	兵庫県	静岡県	富山県	東京都	熊本県	秋田県	岡山県	山口県	新潟県
会場	小田原市 城山 庭球場	明石 市 營	浜松 市 營	高岡市 前田 区 營	後楽園 中大・竹早 コート	玉名市 玉名高校 コート	大館市 鳳鳴高校 コート	岡山市 烏城 コート	下関 市 營	新潟市 白山 庭球場
男女総合	岡山県	広島県	兵庫県	兵庫県	岡山県	東京都	岡山県	東京都	大阪府 岡山県	新潟県
女子総合	広島県	東京都	岡山県	広島県	静岡県 広島県	広島県	広島県	東京都	東京都 愛知県	新潟県 愛知県
高校男子	優勝	神奈川県	山形県	高知県	兵庫県	広島県	広島県	岡山県	広島県	大阪府
	2位	兵庫県	広島県	岡山県	広島県	埼玉県	徳島県	静岡県	岡山県	大阪府
	3位	千葉県	東京都	山梨県	徳島県	兵庫県	福島県	岩手県	山口県	岩手県
	3位	山形県	岡山県	大分県	高知県	群馬県	岡山県	東京都	東京都	栃木県
高校女子	優勝	広島県	広島県	広島県	広島県	兵庫県	東京都	東京都	新潟県	静岡県
	2位	埼玉県	静岡県	長野県	千葉県	埼玉県	京都府	徳島県	徳島県	愛知県
	3位	愛媛県	兵庫県	大阪府	埼玉県	大阪府	広島県	群馬県	広島県	兵庫県
	3位	栃木県	大阪府	徳島県	静岡県	静岡県	大阪府	愛媛県	千葉県	兵庫県
教員	優勝	愛知県	岩手県	兵庫県	山梨県	岡山県	東京都	京都府	岡山県	岡山県
	2位	兵庫県	山梨県	山梨県	兵庫県	兵庫県	兵庫県	兵庫県	高知県	新潟県
	3位	新潟県	鹿児島県	新潟県	熊本県	静岡県	京都府	山梨県	大分県	熊本県
	3位	岩手県	愛知県	鹿児島県	岡山県	岩手県	高知県	大阪府	東京都	京都府
一般女子	優勝	岡山県	東京都	岡山県	東京都	静岡県	東京都	広島県	静岡県	東京都
	2位	福島県	岡山県	三重県	静岡県	岡山県	広島県	岡山県	東京都	静岡県
	3位	東京都	福島県	福島県	岡山県	東京都	長野県	静岡県	宮城県	愛知県
	3位	三重県	三重県	宮崎県	群馬県	広島県	熊本県	愛知県	岡山県	愛知県
一般男子	優勝	岡山県	兵庫県	兵庫県	兵庫県	兵庫県	兵庫県	岡山県	大阪府	兵庫県
	2位	東京都	大阪府	大阪府	東京都	埼玉県	岡山県	東京都	山口県	岡山県
	3位	兵庫県	岡山県	徳島県	愛知県	東京都	岐阜県	岐阜県	岡山県	神奈川県
	3位	徳島県	愛知県	山口県	高知県	岡山県	東京都	兵庫県	大分県	山梨県
壮年(一般男子二部)	優勝	福岡県	福岡県	広島県	福岡県	岡山県	岡山県	岡山県	一般男子に合併	
	2位	広島県	熊本県	三重県	山梨県	東京都	大阪府	大阪府		
	3位	三重県	大阪府	福岡県	東京都	大阪府	福岡県	愛知県		
	3位	北海道	愛知県	山梨県	大阪府	福岡県	東京都	東京都		
備考	第17回大会より壮年(45歳以上)を一般男子に編入した。									

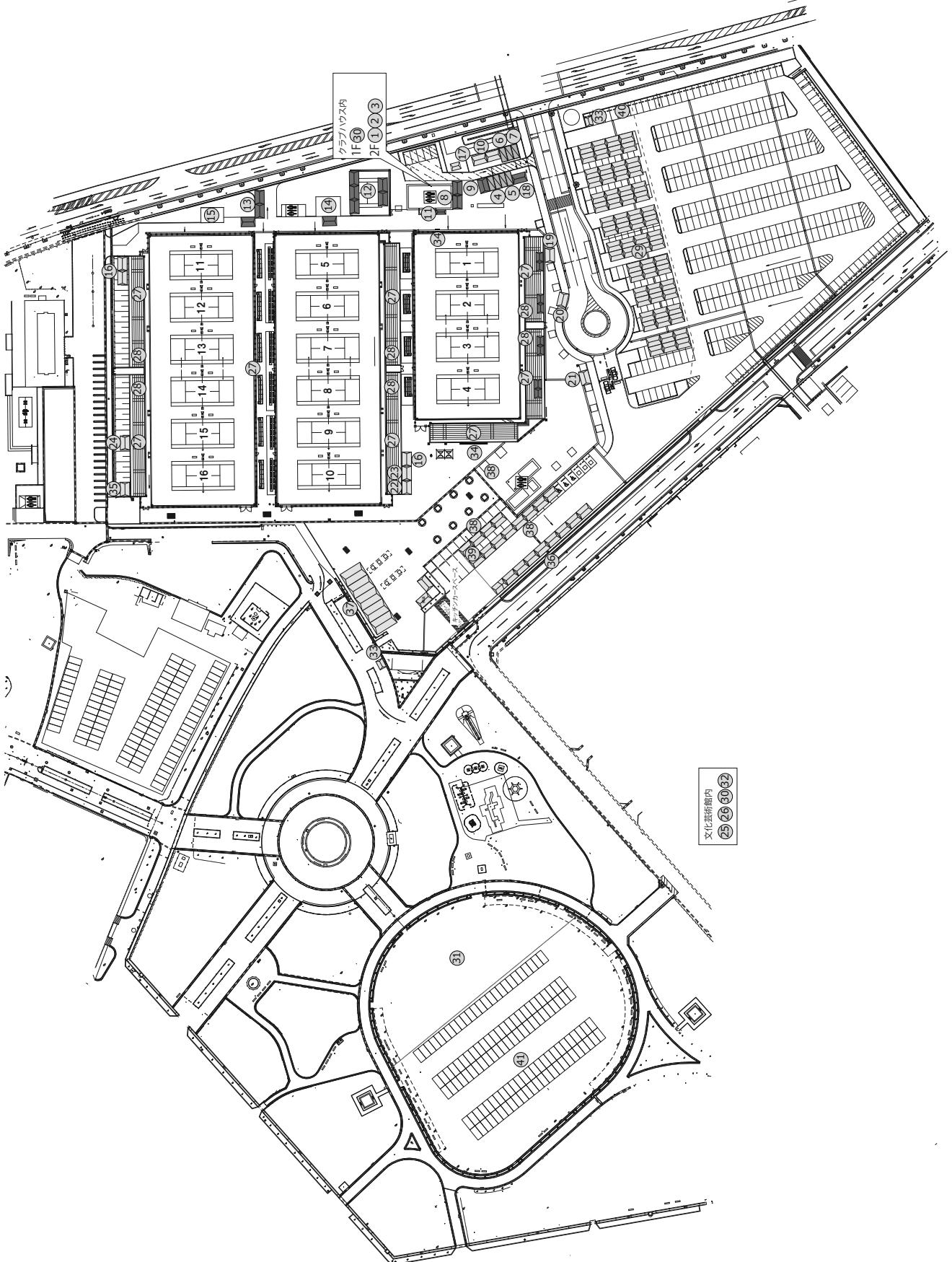
回	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
年	昭和40年	昭和41年	昭和42年	昭和43年	昭和44年	昭和45年	昭和46年	昭和47年	昭和48年	昭和49年
開催県	岐阜県	大分県	埼玉県	福井県	長崎県	岩手県	和歌山県	鹿児島県	千葉県	茨城県
会場	大垣市 西公園 コート	大分 県 営 庭球場	東松山 市 営 庭球場	武生 市 営 庭球場	長崎 市 営 庭球場	北上市常 磐台市民 コート	かつらぎ 公園テニス コート	鹿児島市 東 開 庭球場	茂原 市 営 庭球場	土浦市 川口運動 公園庭球場
男女総合	岐阜県	兵庫県	東京都	兵庫県	長崎県	広島県	和歌山県	鹿児島県	鹿児島県	広島県
女子総合	広島県	兵庫県	広島県	福岡県	兵庫県 長崎県	広島県	兵庫県 鹿児島県	鹿児島県	鹿児島県	兵庫県
高校男子	優勝	大阪府	京都府	岡山県	岡山県	京都府	京都府	京都府	鹿児島県	鹿児島県
	2位	広島県	熊本県	埼玉県	京都府	大分県	長崎県	埼玉県	山口県	岡山県
	3位	岐阜県	岡山県	愛媛県	大阪府	長崎県	山口県	大阪府	埼玉県	京都府
	3位	東京都	高知県	大分県	福井県	大阪府	山梨県	和歌山県	奈良県	千葉県
高校女子	優勝	兵庫県	兵庫県	広島県	福岡県	長崎県	鹿児島県	兵庫県	鹿児島県	千葉県
	2位	愛知県	栃木県	静岡県	愛知県	広島県	広島県	鹿児島県	福岡県	福岡県
	3位	新潟県	新潟県	愛知県	京都府	兵庫県	兵庫県	和歌山県	岡山県	愛知県
	3位	栃木県	広島県	埼玉県	岡山県	愛知県	愛知県	大分県	兵庫県	三重県
教員	優勝	東京都	東京都	熊本県	兵庫県	大分県	岩手県	鹿児島県	鹿児島県	広島県
	2位	新潟県	熊本県	兵庫県	東京都	東京都	群馬県	岩手県	千葉県	兵庫県
	3位	岐阜県	大分県	鹿児島県	大分県	長崎県	京都府	京都府	福井県	東京都
	3位	静岡県	兵庫県	東京都	福井県	京都府	大分県	和歌山県	岡山県	東京都
一般女子	優勝	広島県	兵庫県	東京都	兵庫県	兵庫県	広島県	群馬県	鹿児島県	東京都
	2位	埼玉県	愛知県	広島県	岐阜県	広島県	兵庫県	広島県	兵庫県	千葉県
	3位	岐阜県	広島県	長野県	広島県	東京都	東京都	鹿児島県	広島県	長野県
	3位	新潟県	東京都	徳島県	福岡県	長崎県	新潟県	新潟県	和歌山県	鹿児島県
一般男子	優勝	大阪府	兵庫県	東京都	東京都	東京都	広島県	愛媛県	鹿児島県	広島県
	2位	岡山県	京都府	埼玉県	兵庫県	広島県	岡山県	和歌山県	東京都	千葉県
	3位	愛媛県	広島県	広島県	鹿児島県	静岡県	京都府	岩手県	福井県	岐阜県
	3位	岐阜県	埼玉県	静岡県	山口県	山形県	鹿児島県	岡山県	広島県	静岡県
備考										

回	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	
年	昭和50年	昭和51年	昭和52年	昭和53年	昭和54年	昭和55年	昭和56年	昭和57年	昭和58年	昭和59年	昭和60年	昭和61年	昭和62年	
開催県	三重県	佐賀県	青森県	長野県	宮崎県	栃木県	滋賀県	島根県	群馬県	奈良県	鳥取県	山梨県	沖縄県	
会場	伊勢市営 球場	小城公園 球場	青森県営 球場	上田市営 球場	延岡市西階公園 球場	黒磯市総合運動場 球場	長浜市民球場	安来運動公園 球場	高崎市上並榎庭球場	公苑明日香庭球場	鳥取市千代テニス場	石和中央スポーツ公園	県総合運動公園 球場	
男女総合	三重県	鹿児島県	埼玉県	兵庫県	千葉県	大阪府	埼玉県	千葉県	千葉県	奈良県	鳥取県	山梨県	沖縄県	
女子総合	三重県	兵庫県	千葉県	兵庫県	千葉県	千葉県	埼玉県	千葉県	大阪府	奈良県	千葉県	山梨県	埼玉県 広島県	
少年男子	優勝	三重県	三重県	東京都	奈良県	鹿児島県	栃木県	東京都	埼玉県	奈良県	奈良県	鳥取県	三重県	沖縄県
	2位	奈良県	京都府	京都府	茨城県	神奈川県	静岡県	福岡県	大阪府	香川県	東京都	広島県	山梨県	奈良県
	3位	茨城県	山形県	栃木県	長野県	群馬県	大阪府	広島県	東京都	広島県	佐賀県	埼玉県	広島県	栃木県
	3位	鹿児島県	鹿児島県	石川県	鹿児島県	石川県	長野県	青森県	島根県	大阪府	宮崎県	三重県	大阪府	福岡県
少年女子	優勝	千葉県	兵庫県	千葉県	千葉県	千葉県	大阪府	福岡県	千葉県	大阪府	奈良県	千葉県	大阪府	広島県
	2位	鹿児島県	鹿児島県	愛媛県	兵庫県	東京都	熊本県	奈良県	熊本県	千葉県	群馬県	福岡県	山梨県	大阪府
	3位	福岡県	千葉県	群馬県	香川県	栃木県	愛知県	青森県	大阪府	熊本県	兵庫県	鳥取県	茨城県	石川県
	3位	三重県	福岡県	鹿児島県	鹿児島県	大阪府	千葉県	大分県	群馬県	長崎県	鳥取県	北海道	千葉県	沖縄県
成年男子	優勝	福岡県	鹿児島県	埼玉県	兵庫県	静岡県	京都府	神奈川県	宮崎県	千葉県	千葉県	兵庫県	岡山県	東京都
	2位	千葉県	埼玉県	静岡県	東京都	東京都	東京都	埼玉県	山口県	岡山県	埼玉県	奈良県	奈良県	岡山県
	3位	奈良県	佐賀県	大阪府	兵庫県	北海道	広島県	京都府	大阪府	神奈川県	長崎県	山口県	東京都	奈良県
	3位	静岡県	福岡県	岡山県	長野県	栃木県	佐賀県	和歌山県	山形県	山口県	愛知県	鳥取県	山梨県	神奈川県
成年女子	優勝	三重県	東京都	埼玉県	兵庫県	兵庫県	兵庫県	埼玉県	兵庫県	兵庫県	奈良県	埼玉県	埼玉県	埼玉県
	2位	東京都	埼玉県	兵庫県	埼玉県	千葉県	千葉県	千葉県	東京都	千葉県	東京都	千葉県	山梨県	神奈川県
	3位	静岡県	新潟県	東京都	東京都	北海道	東京都	兵庫県	埼玉県	福島県	千葉県	東京都	東京都	愛知県
	3位	兵庫県	兵庫県	新潟県	福岡県	新潟県	北海道	東京都	千葉県	大阪府	埼玉県	鳥取県	千葉県	長野県
備考	①第30回大会より高校男女が少年男女に種別名変更した。 ②第30回大会より一般男女が成年男女に種別名変更した。													

回	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56
年	昭和63年	平成元年	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年
開催県	京都府	北海道	福岡県	石川県	山形県	徳島県	愛知県	福島県	広島県	大阪府	神奈川県	熊本県	富山県	宮城県
会場	福知山市 三段地公園 テニスコート	苦小牧市 名島運動 公園庭球場	県営 名島運動 公園庭球場	県営 能登健民 テニスコート	山形市総合 スポーツセンター コート	徳島市 テニスセンター	一宮市 テニス場	会津若松市 会津総合運動 公園テニスコート	因島 運動公園	大阪市 マリンテニス パーク北村	小田原テニス ガーデン・厚木市 総合運動 公園テニスコート	熊本市 県民総合運動 公園テニスコート	高岡市 テニスコート	仙台市 青葉山公園 庭球場
男女総合	京都府	東京都	福岡県	石川県	東京都	京都府 徳島県	愛知県	神奈川県	広島県	東京都	奈良県 広島県	広島県	広島県	和歌山県
女子総合	愛知県	東京都	福岡県	石川県	東京都	東京都	大阪府 広島県	大阪府	広島県	広島県	広島県	広島県	広島県	広島県
少年男子	優勝	神奈川県	神奈川県	奈良県	神奈川県	三重県	奈良県	神奈川県	三重県	奈良県	宮城県	埼玉県	宮城県	奈良県 奈良県
	2位	広島県	大阪府	石川県	奈良県	山形県	京都府	石川県	岐阜県	群馬県	長崎県	東京都	奈良県	神奈川県 和歌山県
	3位	東京都	香川県	福岡県	徳島県	奈良県	山梨県	三重県	奈良県	広島県	茨城県	三重県	鹿児島県	東京都 群馬県
	4位	京都府	福岡県	広島県	茨城県	大阪府	徳島県	福岡県	大分県	香川県	群馬県	佐賀県	京都府	栃木県 宮城県
少年女子	優勝	愛知県	広島県	福岡県	石川県	広島県	奈良県	三重県	広島県	和歌山県	福岡県	長野県	広島県	広島県 広島県
	2位	大阪府	岐阜県	熊本県	奈良県	東京都	大阪府	兵庫県	鹿児島県	広島県	三重県	広島県	長野県	石川県 和歌山県
	3位	長崎県	石川県	神奈川県	福岡県	大阪府	東京都	福岡県	大阪府	大阪府	長野県	群馬県	北海道	群馬県 静岡県
	4位	神奈川県	東京都	石川県	群馬県	奈良県	広島県	大阪府	熊本県	奈良県	奈良県	神奈川県	石川県	長野県 石川県
成年男子	優勝	千葉県	京都府	千葉県	岐阜県	京都府	京都府	京都府	愛知県	岡山県	京都府	京都府	広島県	広島県 和歌山県
	2位	京都府	岐阜県	東京都	千葉県	山口県	東京都	三重県	京都府	石川県	岡山県	岡山県	富山県	千葉県 富山県
	3位	奈良県	千葉県	岡山県	石川県	東京都	岡山県	福島県	神奈川県	千葉県	奈良県	奈良県	千葉県	富山県 京都府
	4位	岐阜県	岡山県	福岡県	宮崎県	長崎県	千葉県	愛知県	福島県	広島県	千葉県	神奈川県	岡山県	熊本県 群馬県
成年女子	優勝	埼玉県	埼玉県	埼玉県	石川県	兵庫県	兵庫県	兵庫県	東京都	東京都	東京都	広島県	愛知県	埼玉県 兵庫県
	2位	愛知県	千葉県	千葉県	京都府	埼玉県	東京都	東京都	兵庫県	大阪府	広島県	長崎県	広島県	富山県 広島県
	3位	兵庫県	京都府	兵庫県	埼玉県	京都府	京都府	神奈川県	大阪府	兵庫県	兵庫県	兵庫県	神奈川県	広島県 神奈川県
	4位	北海道	愛知県	京都府	兵庫県	神奈川県	石川県	愛知県	千葉県	広島県	大阪府	奈良県	香川県	長崎県 大阪府
成年2部	優勝	山口県	北海道	岐阜県	兵庫県	千葉県	香川県	愛知県	神奈川県					
	2位	大阪府	静岡県	長野県	北海道	山形県	徳島県	京都府	北海道					
	3位	長野県	愛媛県	埼玉県	東京都	岡山県	群馬県	静岡県	宮城県					
	4位	岩手県	宮崎県	福岡県	石川県	北海道	長野県	埼玉県	福島県					
備考	①第43回から第50回大会まで成年2部を行う（シニア男子45、女子45、男子55編成） ②第45回大会より全種別8位までの順位決定戦を行う。													

回	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	
年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	
開催県	高知県	静岡県	埼玉県	岡山県	兵庫県	秋田県	大分県	新潟県	千葉県	山口県	岐阜県	東京都	
会場	高知市 草薙総合運動場 東部総合運動場 テニスコート	狹山市 有度山総合公園 運動施設 テニスコート	岡山市 智光山公園 テニスコート	浦安総合公園 テニスコート	姫路市立広畠 テニスコート	大館市 高館 テニスコート	大分市 大分スポーツ公園 テニスコート	上越総合 運動公園 テニスコート 新潟市庭球場	白子町 白子サニー テニスコート	宇都マテ “フレッセラ” テニスコート	瑞浪市民 テニスコート 土岐市総合公園 テニスコート	世田谷区 総合運動場 大蔵第二運動場庭球場 鶴沢オリンピック 公園テニスコート	
男女総合	広島県	広島県	広島県	広島県	神奈川県	奈良県	広島県	広島県	東京都	広島県	奈良県	東京都	
女子総合	兵庫県 広島県	兵庫県 広島県	広島県	広島県	広島県	広島県	広島県	東京都	広島県	東京都	東京都	東京都	
少年男子	優勝	奈良県	三重県	宮城県	三重県	愛媛県	奈良県	宮城県	奈良県	宮城県	大阪府	奈良県	山形県
	2位	宮城県	石川県	奈良県	宮城県	神奈川県	三重県	香川県	千葉県	香川県	岡山県	香川県	
	3位	岡山県	奈良県	岡山県	富山県	奈良県	大阪府	栃木県	三重県	奈良県	奈良県	宮城県	
	4位	熊本県	千葉県	神奈川県	和歌山県	三重県	宮崎県	石川県	香川県	和歌山県	広島県	北海道	
少年女子	優勝	奈良県	広島県	広島県	岡山県	広島県	広島県	広島県	福岡県	広島県	東京都	東京都	
	2位	大阪府	神奈川県	大阪府	三重県	和歌山県	和歌山県	岡山県	和歌山県	東京都	三重県	徳島県	
	3位	群馬県	北海道	埼玉県	広島県	東京都	群馬県	和歌山県	新潟県	三重県	岡山県	広島県	
	4位	北海道	岡山県	愛知県	愛媛県	群馬県	埼玉県	香川県	岡山県	広島県	宮城県	福岡県	
成年男子	優勝	広島県	広島県	京都府	広島県	宮城県	奈良県	広島県	京都府	神奈川県	広島県	奈良県	奈良県
	2位	宮崎県	埼玉県	広島県	京都府	神奈川県	兵庫県	宮崎県	広島県	埼玉県	山口県	広島県	愛媛県
	3位	和歌山県	京都府	埼玉県	群馬県	千葉県	秋田県	宮城県	神奈川県	三重県	奈良県	神奈川県	宮崎県
	4位	京都府	奈良県	熊本県	埼玉県	群馬県	宮城県	長崎県	埼玉県	宮崎県	千葉県	三重県	熊本県
成年女子	優勝	兵庫県	兵庫県	広島県	兵庫県	香川県	京都府	東京都	東京都	東京都	広島県	兵庫県	東京都
	2位	神奈川県	千葉県	東京都	広島県	岡山県	東京都	千葉県	兵庫県	兵庫県	山口県	福岡県	兵庫県
	3位	広島県	富山県	長崎県	東京都	兵庫県	兵庫県	京都府	広島県	兵庫県	東京都	千葉県	
	4位	福岡県	東京都	福岡県	石川県	奈良県	千葉県	広島県	徳島県	岡山県	千葉県	埼玉県	和歌山県
備考													

回	69	70	71	72	73	74	75	76	77	特別	78	79
年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
開催県	長崎県	和歌山県	岩手県	愛媛県	福井県	茨城県	鹿児島県	三重県	栃木県	鹿児島県	佐賀県	滋賀県
会場	佐世保市 総合グラウンド 庭球場	白浜町 テニスコート	和賀川 グリーンパーク テニスコート	八幡浜・大洲地区 運動公園 テニスコート 今治市営 スポーツパーク テニスコート	武生中央公園 庭球場 福井市わかば テニスコート	磯原地区公園 テニスコート	東開庭球場	三重交通G スポーツの杜 鈴鹿 庭球場	石川スポーツ グラウンド くろいそ テニスコート	東開庭球場	松浦河畔公園庭球場 佐賀県立唐津東 高等学校・唐津 東中学校テニス コート	長浜城テニ スガーデン Supported by HEISHIN
男女総合	千葉県 兵庫県	和歌山県	三重県	三重県	東京都 奈良県	東京都	—	—	群馬県	広島県	奈良県	
女子総合	千葉県 兵庫県	京都府	東京都	千葉県 東京都 新潟県	東京都	東京都	—	—	兵庫県	兵庫県	兵庫県 広島県	
少年男子	優勝	大阪府	香川県	三重県	奈良県	奈良県	奈良県	—	—	奈良県	香川県	奈良県
	2位	岡山県	奈良県	奈良県	島根県	北海道	香川県	—	—	香川県	千葉県	香川県
	3位	富山县	山形県	宮城県	山形県	宮城県	千葉県	—	—	宮城県	宮城県	宮崎県
	4位	群馬県	岡山県	島根県	宮城県	宮崎県	群馬県	—	—	千葉県	三重県	三重県
少年女子	優勝	福岡県	和歌山県	東京都	東京都	東京都	東京都	—	—	兵庫県	広島県	広島県
	2位	三重県	三重県	広島県	三重県	福岡県	大阪府	—	—	三重県	兵庫県	岡山県
	3位	兵庫県	兵庫県	三重県	神奈川県	京都府	宮城県	—	—	東京都	宮城県	三重県
	4位	北海道	東京都	千葉県	和歌山県	埼玉県	大分県	—	—	和歌山県	三重県	石川県
成年男子	優勝	京都府	和歌山県	北海道	広島県	和歌山県	広島県	—	—	広島県	広島県	奈良県
	2位	奈良県	千葉県	広島県	三重県	広島県	宮崎県	—	—	群馬県	佐賀県	石川県
	3位	山口県	奈良県	和歌山県	北海道	岡山県	岡山県	—	—	北海道	和歌山県	佐賀県
	4位	石川県	岡山県	宮崎県	和歌山県	宮崎県	和歌山県	—	—	埼玉県	奈良県	大阪府
成年女子	優勝	千葉県	千葉県	兵庫県	千葉県	東京都	東京都	—	—	愛知県	兵庫県	兵庫県
	2位	岐阜県	京都府	福島県	京都府	広島県	広島県	—	—	群馬県	千葉県	京都府
	3位	兵庫県	福島県	東京都	福島県	愛知県	愛知県	—	—	兵庫県	京都府	鹿児島県
	4位	東京都	富山县	愛知県	兵庫県	福井県	福島県	—	—	京都府	岐阜県	青森県
備考	①第75回大会及び第76回大会は、中止となった。											



No	諸室名稱
1	来賓・大会役員席
2	総合成績・広報席
3	放送
4	進行・記録本部
5	競技本部
6	実施本部
7	救護所
8	到着オーダー受付所
9	ボール管理委員
10	審判員控所
11	総務員控所
12	チーム集合所①
13	チーム集合所②
14	競技役員・審判員控所
15	競技役員控所
16	競技補助員控所
17	弁当引換所・ふるまいコーナー
18	ドリンクコーナー
19	総合案内所
20	バス乗降所
21	輸送交通本部
22	受付案内所
23	報道員・視察員控所
24	環境美化本部
25	競技会係員控所
26	競技会補助員控所
27	一般観覧席
28	福祉席
29	選手・監督控所
30	更衣室
31	アッパ場
32	授乳室
33	喫煙所
34	トーナメント表
35	ごみ集積所
36	メカニシート
37	休憩所
38	売店
39	おもてなしコーナー
40	仮設トイレ
41	臨時駐車場（一般）

競技会場周辺図

● ソフトテニス競技会場

長浜城テニスガーデン supported by HEISHIN (長浜市民庭球場)

【滋賀県長浜市公園町 10-57 (豊公園) TEL : 0749-62-0020】

● 監督会議・開始式会場

長浜文化芸術会館 【滋賀県長浜市大島町 37 番地 TEL : 0749-63-7400】

● park & ride 駐車場 (シャトルバス発着)

県民共済ドーム長浜 【滋賀県長浜市田村町 1320 番地 TEL : 0749-64-0808】



関係機関連絡先一覧

(1) 事務局

名 称	住 所	電話番号
わた SHIGA 輝く国スポ・障スボ 長浜市実行委員会事務局 (長浜市国スポ・障スボ大会推進室)	長浜市大島町 37 番地 (長浜文化芸術会館内)	0749-65-6303

(2) 監督会議・開始式会場

名 称	住 所	電話番号
長浜文化芸術会館	長浜市大島町 37 番地	0749-63-7400

(3) 競技会場

名 称	住 所	電話番号
長浜城テニスガーデン supported by HEISHIN (長浜市民庭球場)	長浜市公園町 10-57 番地	0749-62-0020

(4) 医療関係

名 称	住 所	電話番号
市立長浜病院	長浜市大戌亥町 313 番地	0749-68-2300
長浜市立湖北病院	長浜市木之本町黒田 1221 番地	0749-82-3315
長浜赤十字病院	長浜市宮前町 14 番 7 号	0749-63-2111

掲載先	URL	QR コード
一般社団法人湖北医師会	https://kohokuishikai.jp/	
医療情報ネット (ナビイ)	https://www.iryou.teikyouseido.mhlw.go.jp/znk-web/juminkanja/S2340/initialize	

(5) 警察・消防等

分類	名称	住所	電話番号
警察	長浜警察署	長浜市八幡中山町 300 番地	0749-62-0110
消防	長浜消防署	長浜市平方町 1135 番地	0749-62-9194
保健所	長浜保健所	長浜市平方町 1152 番地 2	0749-65-6660

(6) 公共交通機関

分類	名称	住所	電話番号
鉄道	JR 長浜駅	長浜城テニスガーデン supported by HEISHIN から徒歩 5 分	
	JR 田村駅	県民共済ドーム長浜から徒歩 8 分	
	※ 長浜駅～田村駅 1 駅区間（乗車時間 3 分 運賃 150 円）		
タクシー	長浜タクシー(株)	長浜市平方町 318 番地	0749-63-6318
	都タクシー(株) 長浜営業所	長浜市平方町 244 番地	0120-373-385
	(株)さくらタクシー	長浜市末広町 372 番地の 3	0749-63-7600
	近江タクシー(株) 長浜営業所	長浜市西上坂町 128 番地	0749-62-0106
	滋賀中央交通(株)	長浜市内保町 758 番地 4	0749-53-2708
	伊香交通(株)	長浜市木之本町木之本 1545 番地	0749-82-2135

(7) その他

分類	名称	電話番号
配宿	わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ配宿・輸送センター	077-510-1370
輸送	長浜市国スポ輸送・弁当センター	050-8894-7024
斡旋弁当	長浜市国スポ輸送・弁当センター	050-8894-7024



スポーツ・ハラスメント（暴力、暴言、ハラスメントなど）に、
みんなが『NO！』と言う社会を目指して

『スポハラ（スポーツ・ハラスメント）』とは？

「スポハラ（スポーツ・ハラスメント）」とは、スポーツの現場において、「暴力」、「暴言」、「ハラスメント」、「差別」など“安全・安心にスポーツを楽しむことを害する行為”のことです。
指導者と指導を受ける者との関係のみならず、スポーツの現場における関係者の誰によっても、また誰に対してであっても、スポハラは起こります。



Japanese
Olympic
Committee



『スポハラ』根絶に向けた取組み



JSPO
Japan Sport Association

NO! スポハラ

スポーツ・ハラスメント

(暴力・暴言・ハラスメントなど) に、

みんなが『NO !』と言う社会を目指して



ぼうりょくこういとうそだんまどぐち
スポーツにおける暴力行為等相談窓口

相談員



どなたでもご利用可能!

お気軽にご相談ください

スポーツにおける暴力行為等根絶宣言・
スポーツ・インテグリティ確保に関する協力覚書»



『スポハラ』根絶に向けた取組み



グッドコーチとして適切に対応するための動画・ワークブックの公開

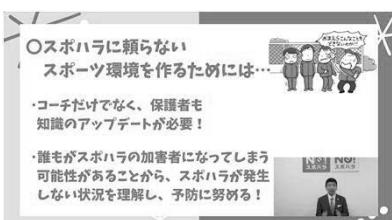


スポーツ現場におけるハラスメント防止動画・情報発信動画の公開

<スポーツ現場におけるハラスメント防止動画>



<「スポハラ」に関する情報発信動画>



ハラスメント防止・啓発セミナーの実施

<令和6（2024）年度の様子（計4会場で実施）>



「NO！スポハラ」活動に関する各種広報資料・動画の公開

<過去開催した研修会等の動画公開>



<ポスター・ロゴ等広報ツール>



アスリートの盗撮、 写真・動画の悪用、 悪質なSNS投稿は 卑劣な行為です。

スポーツは、子供から大人まで誰もが楽しめるものです。そのためにも安心してスポーツに取り組める環境を守っていく必要があります。盗撮はもちろん、アスリートの写真・動画を使用した性的目的のSNS投稿やWEB掲載は、アスリート、更には多くのファン、家族、関係者を傷つける絶対に許されない卑劣な行為です。

すべてのアスリートが競技に集中し、スポーツを心から楽しめる環境を守るため、スポーツ界全体でこの問題に取り組みます。

- ▶ 大会における盗撮防止事例を共有し、各大会での防止策の取り組みを後押しします。
- ▶ 研修等を通じ、アスリート自身がネットやSNSで身を守る必要性を啓発していきます。
- ▶ SNS投稿やWEB掲載の実態把握に努め、関係機関に共有していきます。

この問題を解決するには皆さんのご理解が欠かせません。

これからも安心してスポーツができる環境を守るために、ご理解ご協力をお願いいたします。

安全な環境を、すべてのスポーツ愛好者のために。
SAVE ATHLETES, SAVE SPORT.

大会会場で盗撮等が疑われる行為を見かけましたら大会主催者にお知らせください。

アスリートを傷つける性的目的のSNS投稿やWEB掲載を見かけましたら下記サイトよりご連絡ください。
今後の対応に活用するとともに、悪質な事例については当局への通報も検討します。

<https://www.joc.or.jp/about/savesport/>



- ▶ 盗撮は迷惑防止条例で犯罪として処罰される可能性があります。
- ▶ SNS等で本人の名誉を傷つける書き込みは犯罪(名誉毀損罪)として処罰される可能性があります。
- ▶ 匿名による投稿であっても、法的手続により、投稿者が特定され、損害賠償請求の対象になる可能性があります。

公益財団法人 日本オリンピック委員会 公益財団法人 日本スポーツ協会 公益財団法人 日本障がい者スポーツ協会 一般社団法人 大学スポーツ協会
公益財団法人 全国高等学校体育連盟 公益財団法人 日本中学校体育連盟 独立行政法人 日本スポーツ振興センター



越え 文化

挑戦者たちは越えようとする。
記録を。ライバルを。自分自身を。
過去の常識も。世界の価値観さえも。
挑戦者たちこそあたらしい未来への原動力だ。
これまで、そしてこれからも、
わたしたちは挑戦する人たちを応援します。
スポーツの持つ様々な可能性で、
望む未来へとどり着くために。



スポーツと、望む未来へ。

わたしたちは、JAPAN GAMES を応援しています。



Otsuka 大塚製薬



三井住友海上
MS&AD INSURANCE GROUP

セレスポ 時事通信



勝利を超える価値がある

私たちは信じる。

正々堂々と競いあう潔さを。

相手をリスペクトすることで生まれる友情や感動を。

まっすぐ挑戦しつづける、そこに、

自分や、仲間や、社会さえ変える力があることを。

さあ、すべては、私たちの中にある

フェアネスの心からはじまる。

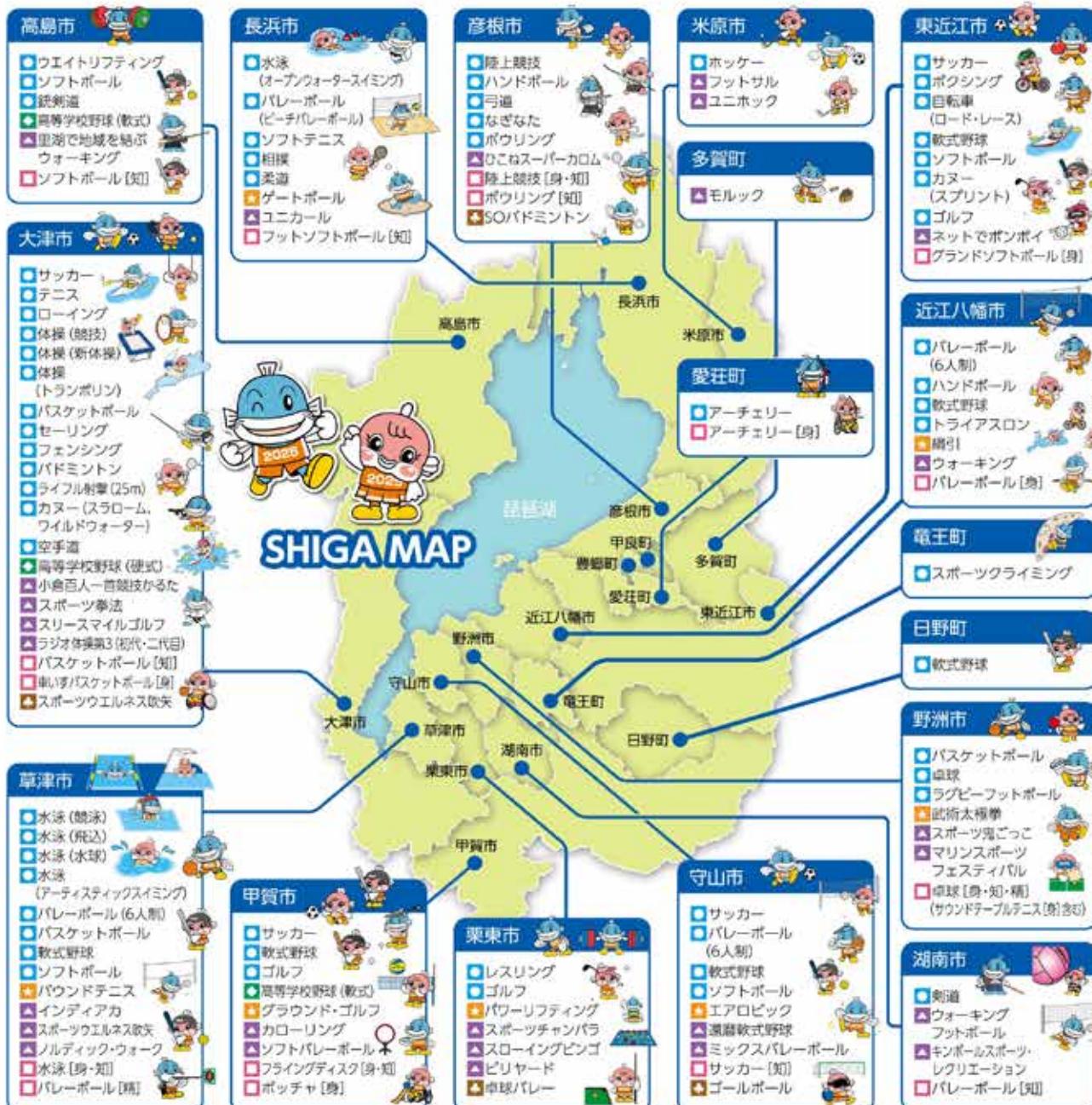
スポーツのフェアネスが、社会のフェアネスを支えるために。



公益財団法人 日本アンチ・ドーピング機構

わたSHIGA輝く国スポ・障スポ 競技会場地マップ

2025年8月現在



国民スポーツ大会

- 正式競技(37競技) ■ 特別競技(1競技) □ 公開競技(7競技)
▲ デモンストレーションスポーツ(26競技)

会員登録者数：35万会員

- 王武競技(3,480m) ■オーバー競技(4,800m)

【左】—身体距离者、【右】—头部距离者、【中】—精神距离者

■ [身]=身体障害者 [知]=知的障害者 [精]=精神
※国入式ボ競技会の詳細については各競技会場市町にお問合せください
※新規地主・予約者登録が済む場合があります。

車所在地と通常準備用剤が異なる場合があります。

雅樂之風

課外閱讀



びわこ国体・びわこ大会から44年ぶりの開催!

国スロ実施期間	令和7年 9月28日(日)～10月8日(水) [11日間開催]
国スロ合宿期間	令和7年9月6日(土)～9月15日(月)、令和7年9月21日(日)～9月25日(木)
国スロ実施期間	令和7年10月25日(土)～10月27日(月) [3日間開催]

大会 PR

さらなる高みを目指して、日々努力するアスリートの姿を胸撫感あるるる競技場と会わせてご覧ください。



木金公式SNS・HPはコチラから! [進賀2025](#)



2024年から国民体育大会(国体)は、国民スポーツ大会(国スポ)に名称変更されました。



湖国の感動 未来へつなぐ

わたSHIGA輝く国スポ・障スポ

第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会

2025



国スポ・障スポ滋賀2025 大会HP

<https://shiga-sports2025.jp/>



わたSHIGA輝く国スポ・障スポ2025 長浜市公式サイト

<https://nagahama-kokusupo2025.jp/>



長浜市公式

Instagram

国スポチャンネル

<https://japangamestv.japan-sports.or.jp/>



【競技記録・速報】インターネット・携帯サイト

開設期間 令和7年9月1日(月)～12月26日(金)

PC・スマホ

<https://kirokukensaku.net/5NS25/index.html>



フィーチャーフォン(ガラケー)

<http://kirokukensaku.net/5NS25/mob/index.html>



国スポの観覧・観戦に関するお問い合わせ

わたSHIGA輝く国スポ・障スポ実行委員会事務局

コールセンター TEL:0120-550-882

第79回国民スポーツ大会ソフトテニス競技会

わたSHIGA輝く国スポ・障スポ長浜市実行委員会事務局

TEL:0749-65-6303

